

**日立市**  
**男女共同参画に関する大学生アンケート**  
**【結果報告書】**

**令和3年11月**  
**日立市**



# 目次

<b>I. 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査の目的 .....	3
2. 調査の内容 .....	3
3. 回答結果 .....	3
4. 報告書を見る際の注意点 .....	3
<b>II. 調査結果の概要</b> .....	<b>5</b>
1. あなたご自身のことについて .....	7
2. 男女の地位や役割について .....	7
3. 家庭生活・地域活動について .....	7
4. 仕事と生活の両立について .....	8
5. 人権問題・DVについて .....	8
6. 男女共同参画の推進について .....	8
<b>III. 調査結果</b> .....	<b>9</b>
1. あなたご自身のことについて .....	11
2. 男女の地位や役割について .....	13
3. 家庭生活・地域活動について .....	24
4. 仕事と生活の両立について .....	34
5. 人権問題・DVについて .....	42
6. 男女共同参画の推進について .....	47
7. 自由記述について .....	50



## I. 調査の概要



## 1. 調査の目的

---

---

本調査は、平成 29 年に策定した「第 3 次ひたち男女共同参画計画」の見直しに際し、次期計画策定に資するために実施するものであり、男女共同参画の視点から、男女が共にその個性と能力を發揮できるよう、大学生における男女共同参画の意識を把握し、今後の男女共同参画施策に生かすことを目的とする。

## 2. 調査の内容

---

---

- 調査対象：日立市及び近隣の大学に通う学生「300 人」
- 調査方法：インターネット調査
- 調査期間：令和 3 年 9 月 27 日（月）～令和 3 年 10 月 27 日（水）

## 3. 回答結果

---

---

調査区分	依頼件数	回答件数	回答率
日立市及び近隣の大学に通う学生	300 人	91 人	30.3%

## 4. 報告書を見る際の注意点

---

---

- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点第 2 位を四捨五入して小数点第 1 位までを示しているため、その合計値が 100%にならない場合があります。
- 図表中の「n」とは、その設問の回答者数を表しています。
- 複数回答の設問の場合、回答比率の合計は 100%を超える場合があります。

## I. 調査の概要



## Ⅱ. 調査結果の概要



## 1. あなたご自身のことについて

---

回答者の属性について、「男性」が64.8%、「女性」が34.1%と、男性からの回答が多くなっている。

同居人では、「ひとり暮らし（寮も含む）」の割合が約1割であることから、多くの大学生は家族と一緒に暮らしていると考えられる。なお、出身地では、「日立市内」が8.8%、「茨城県内（日立市以外）」が79.1%と、約9割の大学生が茨城県内の出身となっている。

## 2. 男女の地位や役割について

---

“男は外で働き、女は家庭を守るべき”という考え方について、「賛成」、「どちらかといえば賛成」の合計値が19.8%、「反対」、「どちらかといえば反対」の合計値が59.4%と、反対である考えが39.6ポイント上回っている。

女性が職業を持つことについて、性別でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」では、男性が37.3%、女性が64.5%と、男性に比べて女性のほうが、子どもができて職業の継続を望む声が多い。

性別による生きにくさを感じている状況について、男性、女性ともに、約5割が生きにくさを感じていると回答している。生きにくさを感じた理由では、男性は「泣き言を言えない風潮がある」、女性は「気が利くことを求められる風潮がある」の割合が高くなっている。

分野における男女の地位について、「平等」と回答している割合は、『学校教育』が約8割、『コミュニティ』が約6割である一方、『家庭生活』では約4割、『職場』、『社会通念・慣習』、『自治組織』、『社会全体』がともに約3割、『政治の場』が約1割となっている。

## 3. 家庭生活・地域活動について

---

結婚について、性別でみると、男性のほうが「法律に基づく結婚がしたい」、「法律や形式にはこだわらない（事実婚や同棲などでもよい）」の割合が高くなっている。なお、女性においては、「わからない」の回答が約3割と、結婚に対する回答に迷いが生じている状況もうかがえる。

結婚に対するイメージについて、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計値は、『様々な経験が増え、自分が成長できる』が84.7%で最も高く、次いで『家庭をもつことによりやすらぎや精神的充足が得られる』が80.2%、『協力・分担しあうことで、日常生活が楽になる』が69.3%と、結婚に対するプラスのイメージが上位を占めている。一方で、結婚に対してマイナスのイメージと捉えられる『結婚すると自由がなくなる』、『他人と暮らす面倒さがある』では、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計値は、男性に比べて女性の割合が高くなっている。

子どもを欲しいと思うかについて、「子どもは欲しい」が42.9%で最も高く、次いで「パートナーが望めばいてもよい」が33.0%、「わからない」が16.5%となっている。性別でみると、女性においては、「わからない」の回答が約2割と、子どもが欲しいかという回答に迷いが生じている状況もうかがえる。

学校以外の社会活動、地域活動への参加について、性別でみると、「参加したいができていない」では、男性が35.6%、女性が51.6%と、女性のほうが参加に対して積極的であることがうかがえる。なお、参加できていない、参加するつもりがない理由としては、「情報がなく、どうやって参加したらよいかわからない」の割合が最も高く、約4割を占めている。

## 4. 仕事と生活の両立について

---

大学卒業後の進路について、男性、女性ともに「就職する（正規雇用）」が約9割を占めている。

理想とする働き方について、「同じ職場・会社で働き続ける」では、男性が約7割、女性が約8割となっている。なお、「一度就職してから起業する」は、男性が5.1%、女性が0.0%となっている。

理想に近い仕事と仕事以外の生活のバランスについて、「仕事と仕事以外の生活が同等」が45.1%で最も高く、次いで「どちらかといえば仕事以外の生活が優先」が24.2%、「どちらかといえば仕事を優先」が18.7%となっている。性別で見ると、「どちらかといえば仕事を優先」では、男性が23.7%、女性が9.7%と、男性の割合が高くなっている。一方で、「仕事と仕事以外の生活が同等」では、男性が37.3%、女性が61.3%と、女性の割合が高くなっている。

仕事と仕事以外の生活を両立するため、企業や事業所は従業員に対してどのような支援を充実させるべきだと思うかについて、「子どもの看病のための休暇が安心して取れる制度」が69.2%で最も高く、次いで「妊娠中や育児期間中の勤務軽減」が67.0%、「男性も子育てに参加できる環境づくり」が64.8%となっている。

## 5. 人権問題・DVについて

---

“性的マイノリティ（LGBT等）”について、「知っている」が80.2%、「知らない」が19.8%となっている。

“いばらきパートナーシップ宣誓制度”について、「知っている」が18.7%、「知らない」が81.3%となっている。

一部の自治体で取り組みを進めている“パートナーシップ制度”について、「必要だと思う」、「どちらかといえば必要だと思う」の合計値は約7割となっている。なお、「わからない」との回答は約2割と、制度への理解が進んでいないことなどにより、回答に迷いが生じている状況もうかがえる。

恋人などからの暴力等を相談できる窓口について、「知っている」が28.6%、「知らない」が71.4%となっている。

恋人から受けた行為について、約9割は「交際相手から受けた行為はない」と回答している一方で、少数ではあるものの、恋人から何かしらの行為を受けたと回答している。なお、恋人から暴力等を受けたときの相談先では、「どこにも相談しなかった」が25.0%と、約4人に1人は相談できていない状況となっている。

## 6. 男女共同参画の推進について

---

学生時代に男女共同参画について学ぶ機会があったかについて、「男女平等の意識を育てるための道徳学習」が61.5%で最も高く、次いで「家事や育児を学ぶ家庭科の学習」が45.1%、「人としての尊厳、平等を尊重する人権教育」が37.4%となっている。

男女共同参画社会の実現のために、学校で特に力を入れればよいと思うことについて、「学生に向けての男女平等な意識を育む教育の推進」が62.6%で最も高く、次いで「学生に向けての多様性を認め合う教育の充実」が39.6%、「学生への男女にかかわらず、発言機会や役員登用などの機会の創出」が38.5%となっている。

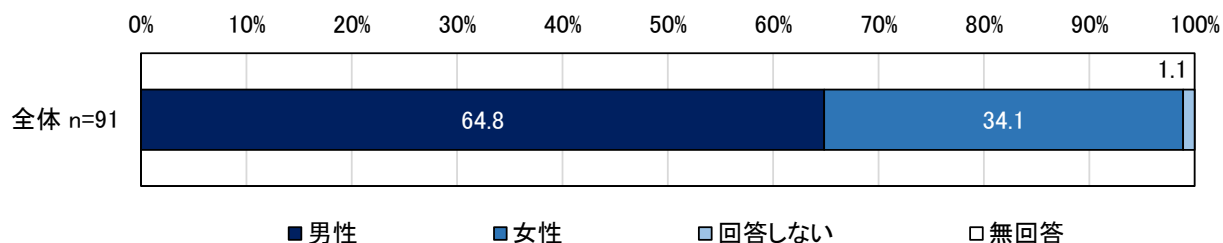
## Ⅲ. 調査結果



## 1. あなたご自身のことについて

### F 1 あなたの性別を教えてください。(回答は1つ)

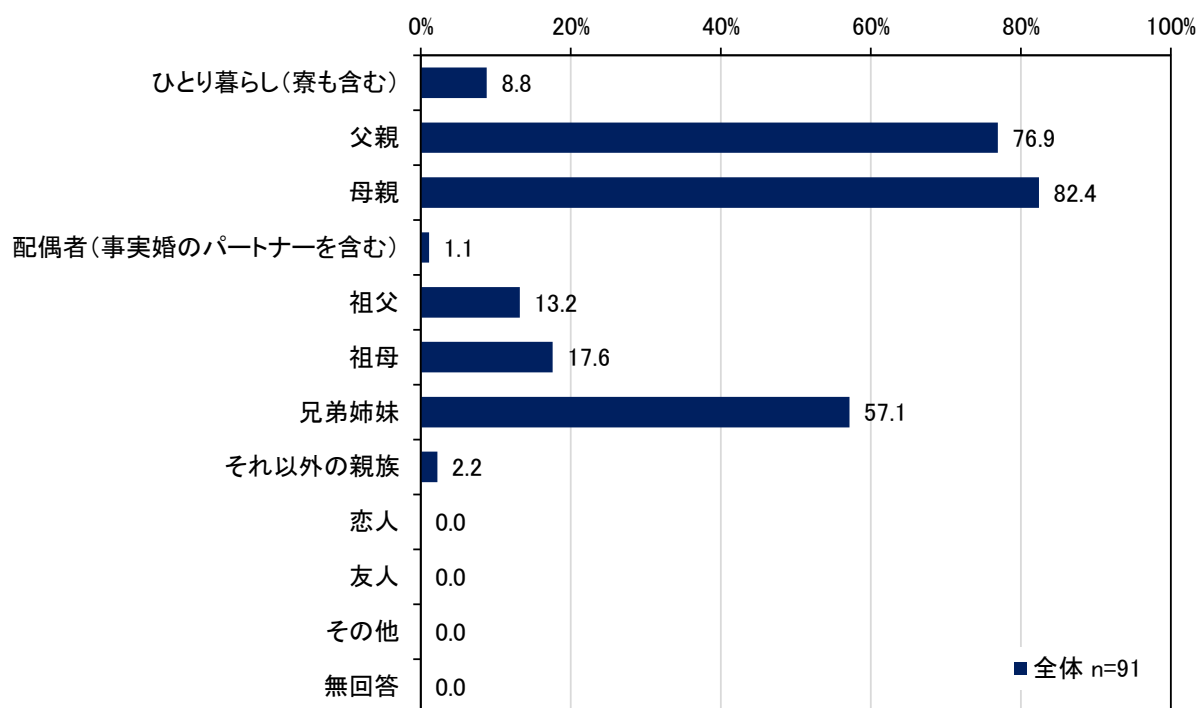
性別については、「男性」が64.8%、「女性」が34.1%、「回答しない」が1.1%となっている。



### F 2 あなたは、今、誰と住んでいますか。(回答はあてはまるものすべて)

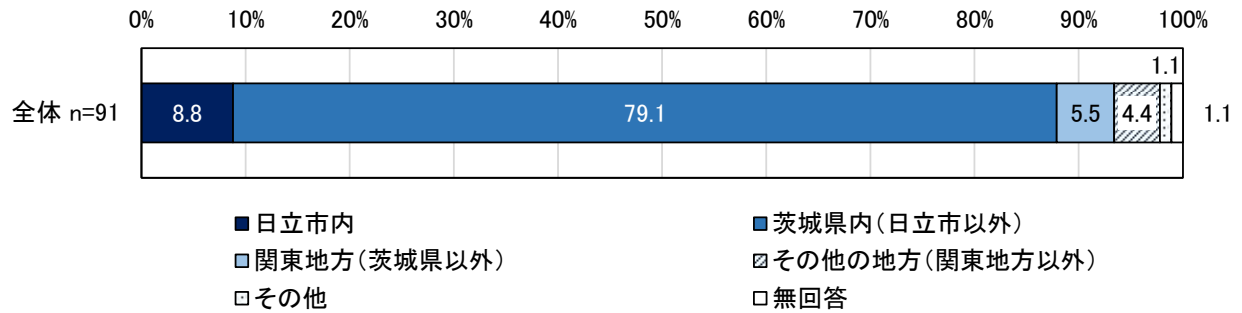
※単身赴任などで一時的に別居している方も含めて回答してください。

同居人については、「母親」が82.4%で最も高く、次いで「父親」が76.9%、「兄弟姉妹」が57.1%となっている。



**F 3 あなたの出身地を教えてください。(回答は1つ)**

出身地については、「茨城県内（日立市以外）」が79.1%で最も高く、次いで「日立市内」が8.8%、「関東地方（茨城県以外）」が5.5%となっている。



**■ その他の回答**

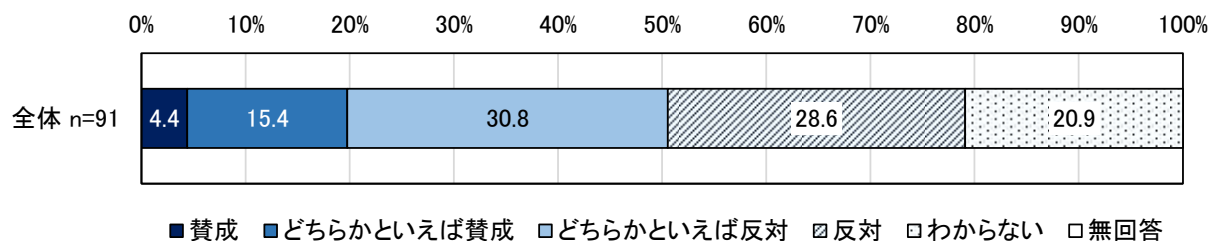
・ 福島県南相馬市



## 2. 男女の地位や役割について

**問1 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。  
(回答は1つ)**

「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方については、「どちらかといえば反対」が30.8%で最も高く、次いで「反対」が28.6%、「わからない」が20.9%となっている。

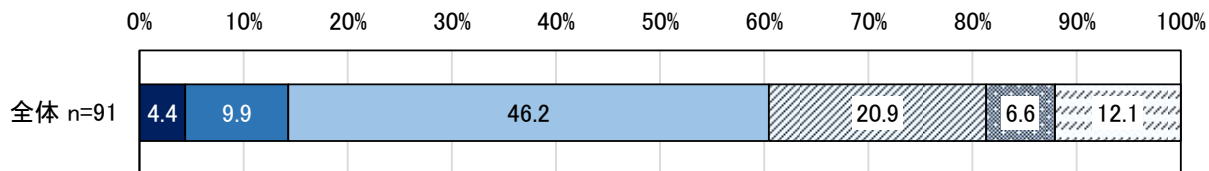


性別でみると、「反対」では、男性が20.3%、女性が45.2%と、女性が24.9ポイント上回っている。

【性別】 単位:%	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	わから ない	無回答
男性 n=59	6.8	13.6	37.3	20.3	22.0	0.0
女性 n=31	0.0	19.4	19.4	45.2	16.1	0.0
回答しない n=1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

**問2 一般的に女性が職業を持つことについて、あなたはどのように考えますか。(回答は1つ)**

女性が職業を持つことについては、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が46.2%で最も高く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が20.9%、「結婚して子どもができるまでは職業を持つ方がよい」が9.9%となっている。



- 結婚するまでは職業を持つ方がよい
- 結婚して子どもができるまでは職業を持つ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
- 子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい
- 女性は職業を持たない方がよい
- わからない
- その他
- 無回答

性別でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」では、男性が37.3%、女性が64.5%と、女性が27.2ポイント上回っている。

【性別】 単位: %	結婚する までは職 業を持つ 方がよい	結婚して 子どもが できるま で職業を 持つ方が よい	子どもが できて、 ずっと職 業を続 ける方 がよい	子どもが できたら 職業をや め、子ど もが大 きくな ったら 再び職 業を持 つ方が よい	女性は職 業を持た ない方が よい	わから ない	その他	無回答
男性 n=59	6.8	11.9	37.3	23.7	0.0	8.5	11.9	0.0
女性 n=31	0.0	6.5	64.5	16.1	0.0	3.2	9.7	0.0
回答しない n=1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

---

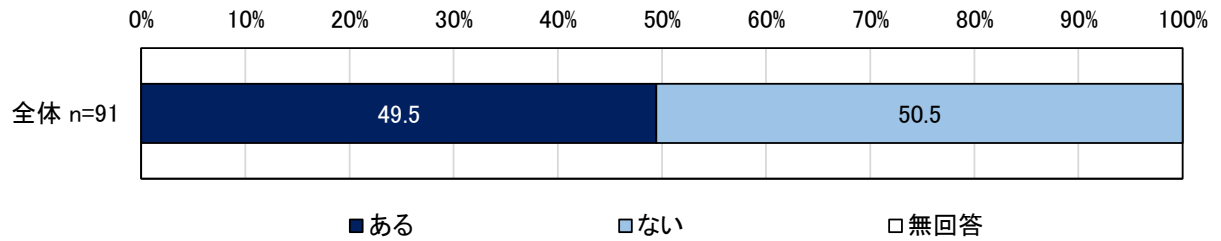
**■その他の回答**

---

- ・本人の好きなようにやるのが良い
  - ・本人の自由
  - ・自由
  - ・人それぞれ
  - ・その人の自由だと思う、結婚して子供ができたときに育休を取って、その後も働き続けるのも良いし、育児に専念したい意思があれば尊重すべきだと思う、夫が理解してくれるかどうかだと思う
  - ・本人の意志によって、結婚前から結婚後や子供が生まれた後、その先についても職業につかない、継続するか等決めるべきだと考える
  - ・自分がやりたいようにやれば良い
  - ・結婚をしても、子供ができて職業をもつかどうかは個人の自由だと思う、辞めたい人は辞めれば良いし、続けたい人は続ければ良いと思う
  - ・結婚や子供の有無に関わらず、職業を持ちたい人は持てば良い
  - ・当人や周りの人々が働きたい場合、ずっと働ける環境になる方が良い
  - ・当人がしたいようにするのが良い
-

**問3 あなたは、「男性だから」「女性だから」という決めつけにより生きにくさを感じたことはありますか。(回答は1つ)**

性別による生きにくさを感じたことがあるかについては、「ある」が49.5%、「ない」が50.5%となっている。



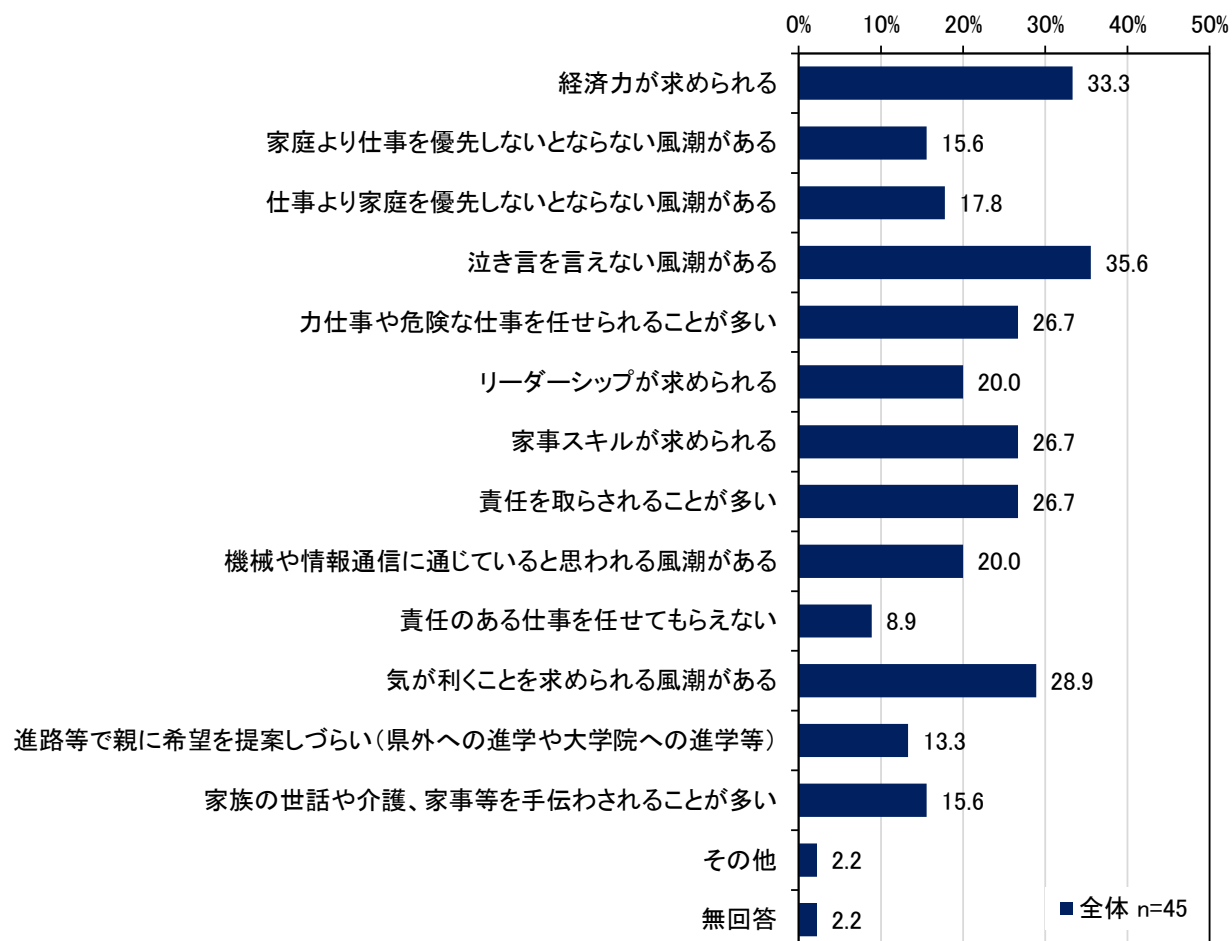
性別でみると、「ある」では、男性が49.2%、女性が48.4%と、性別による大きな差はみられない。

【性別】 単位: %	ある	ない	無回答
男性 n=59	49.2	50.8	0.0
女性 n=31	48.4	51.6	0.0
回答しない n=1	100.0	0.0	0.0

【問3で「ある」と回答した方にお聞きします。】

**問4 それほどの理由ですか。(回答はあてはまるものすべて)**

性別による生きにくさを感じた理由については、「泣き言を言えない風潮がある」が35.6%で最も高く、次いで「経済力が求められる」が33.3%、「気が利くことを求められる風潮がある」が28.9%となっている。



### Ⅲ. 調査結果

性別でみると、男性では、「泣き言を言えない風潮がある」が51.7%で最も高く、次いで「経済力が求められる」が48.3%、「力仕事や危険な仕事を任せられることが多い」、「責任を取らされることが多い」がともに37.9%となっている。女性では、「気が利くことを求められる風潮がある」が53.3%で最も高く、次いで「家事スキルが求められる」が46.7%、「進路等で親に希望を提案しづらい（県外への進学や大学院への進学等）」、「家族の世話や介護、家事等を手伝わされることが多い」がともに26.7%となっている。

【性別】 単位：%	経済力が求められる	家庭より仕事を優先しないとならない風潮がある	仕事より家庭を優先しないとならない風潮がある	泣き言を言えない風潮がある	力仕事や危険な仕事を任せられることが多い	リーダーシップが求められる	家事スキルが求められる	責任を取らされることが多い
男性 n=29	48.3	20.7	17.2	51.7	37.9	31.0	17.2	37.9
女性 n=15	6.7	6.7	20.0	6.7	6.7	0.0	46.7	6.7
回答しない n=1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【性別】 単位：%	機械や情報通信に通じていると思われる風潮がある	責任のある仕事を任せられない	気が利くことを求められる風潮がある	進路等で親に希望を提案しづらい（県外への進学や大学院への進学等）	家族の世話や介護、家事等を手伝わされるが多い	その他	無回答
男性 n=29	27.6	6.9	13.8	6.9	10.3	0.0	0.0
女性 n=15	6.7	13.3	53.3	26.7	26.7	6.7	6.7
回答しない n=1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

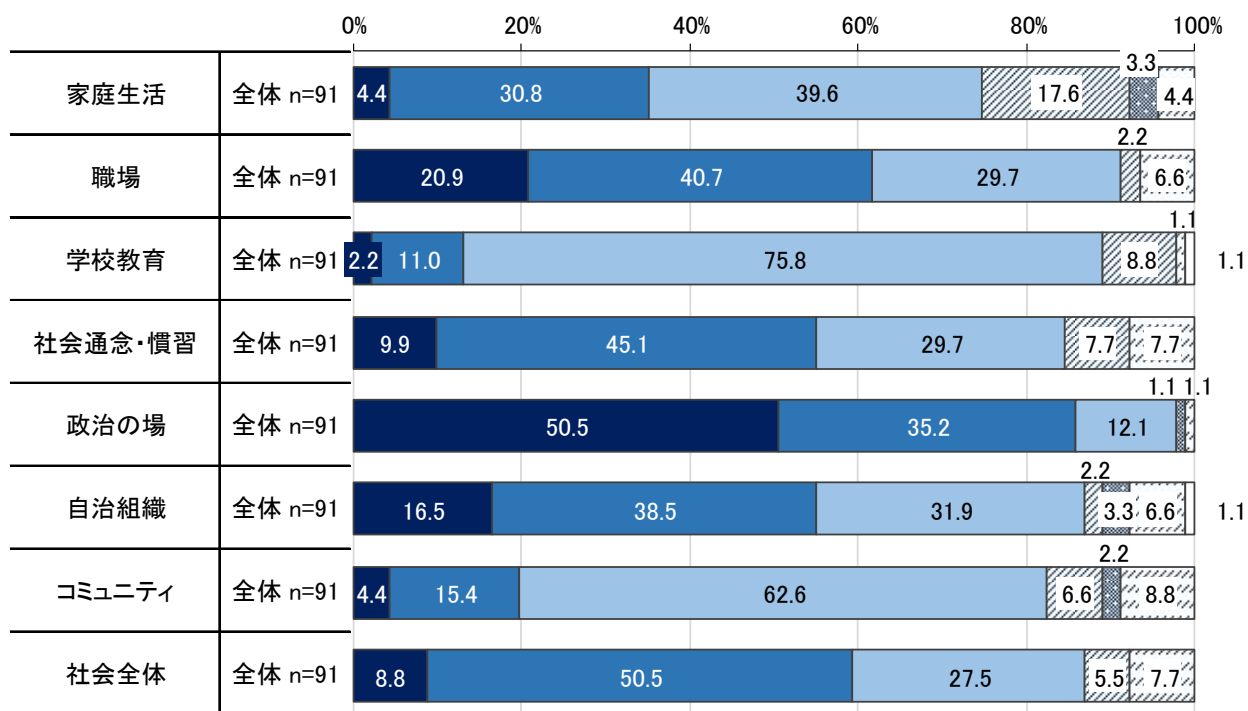
#### ■ その他の回答

・「女の子だから」と髪型などが否定されてきた過去がある

**問5 あなたは、次の分野において男女の地位は平等になっていると思いますか。**

**(1)～(8)のそれぞれに回答してください。(それぞれ回答は1つ)**

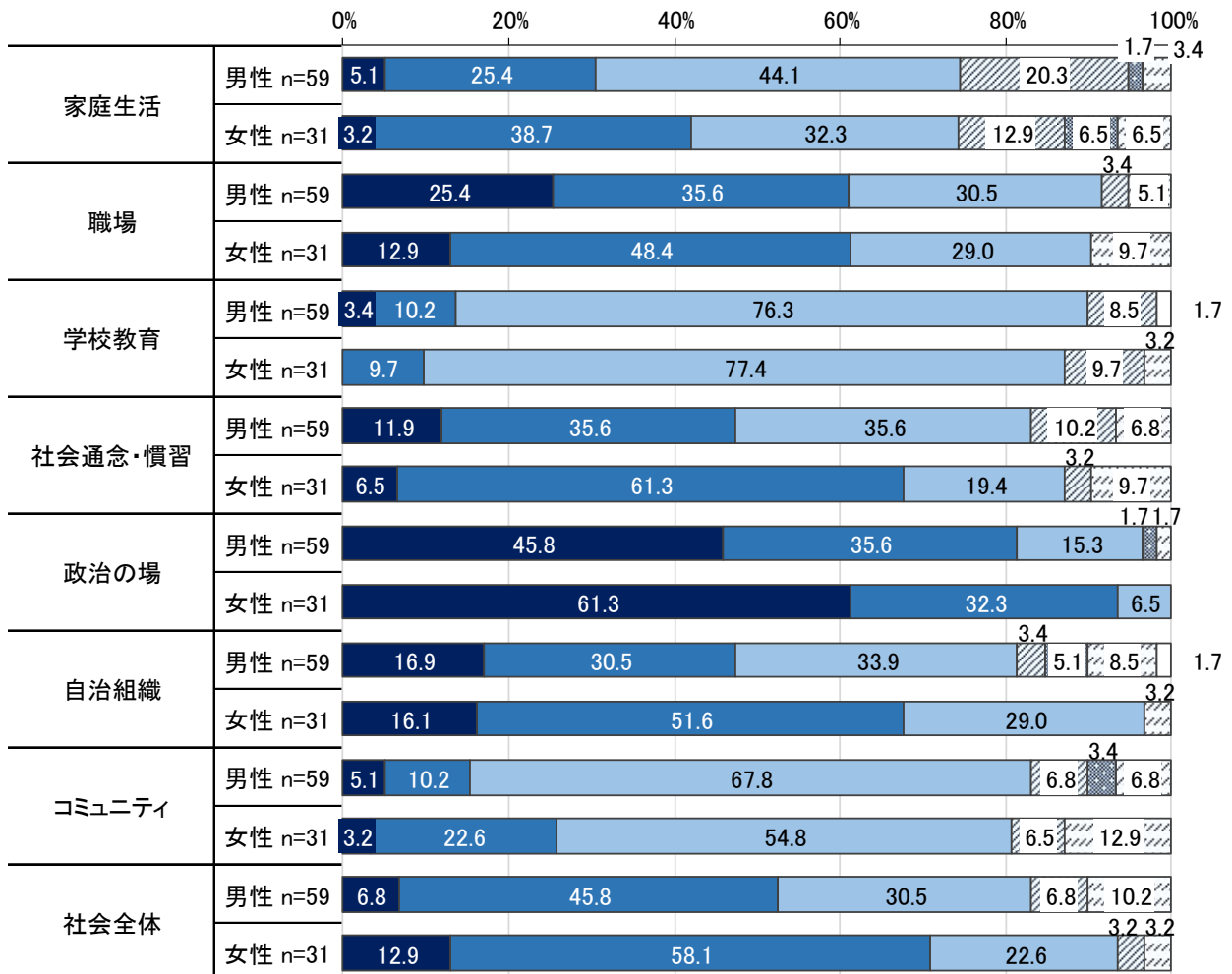
分野における男女の地位については、「平等」では、『学校教育』が75.8%で最も高く、次いで『コミュニティ』が62.6%、『家庭生活』が39.6%となっている。また、「男性の方が非常に優遇されている」では、『政治の場』が50.5%で最も高く、次いで『職場』が20.9%、『自治組織』が16.5%となっている。



- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

Ⅲ. 調査結果

性別でみると、『家庭生活』において「平等」の割合は、男性が 44.1%、女性が 32.3%と、男性が 11.8 ポイント上回っている。その他の分野においても、『学校教育』を除き、「平等」の割合は男性のほうが上回っている。

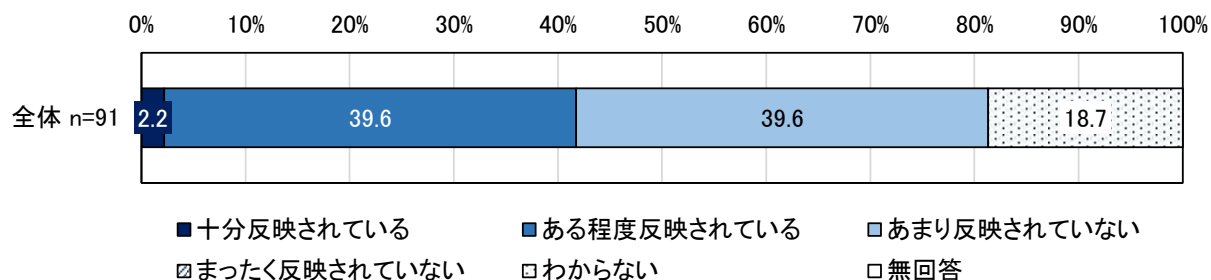


- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- ▨ わからない
- 無回答



**問6 あなたは、女性の意見が、行政（国や地方自治体）にどの程度反映されていると感じますか。（回答は1つ）**

女性の意見が行政に、どの程度反映されていると感じるかについては、「ある程度反映されている」、「あまり反映されていない」がともに39.6%で最も高く、次いで「わからない」が18.7%、「十分反映されている」が2.2%となっている。

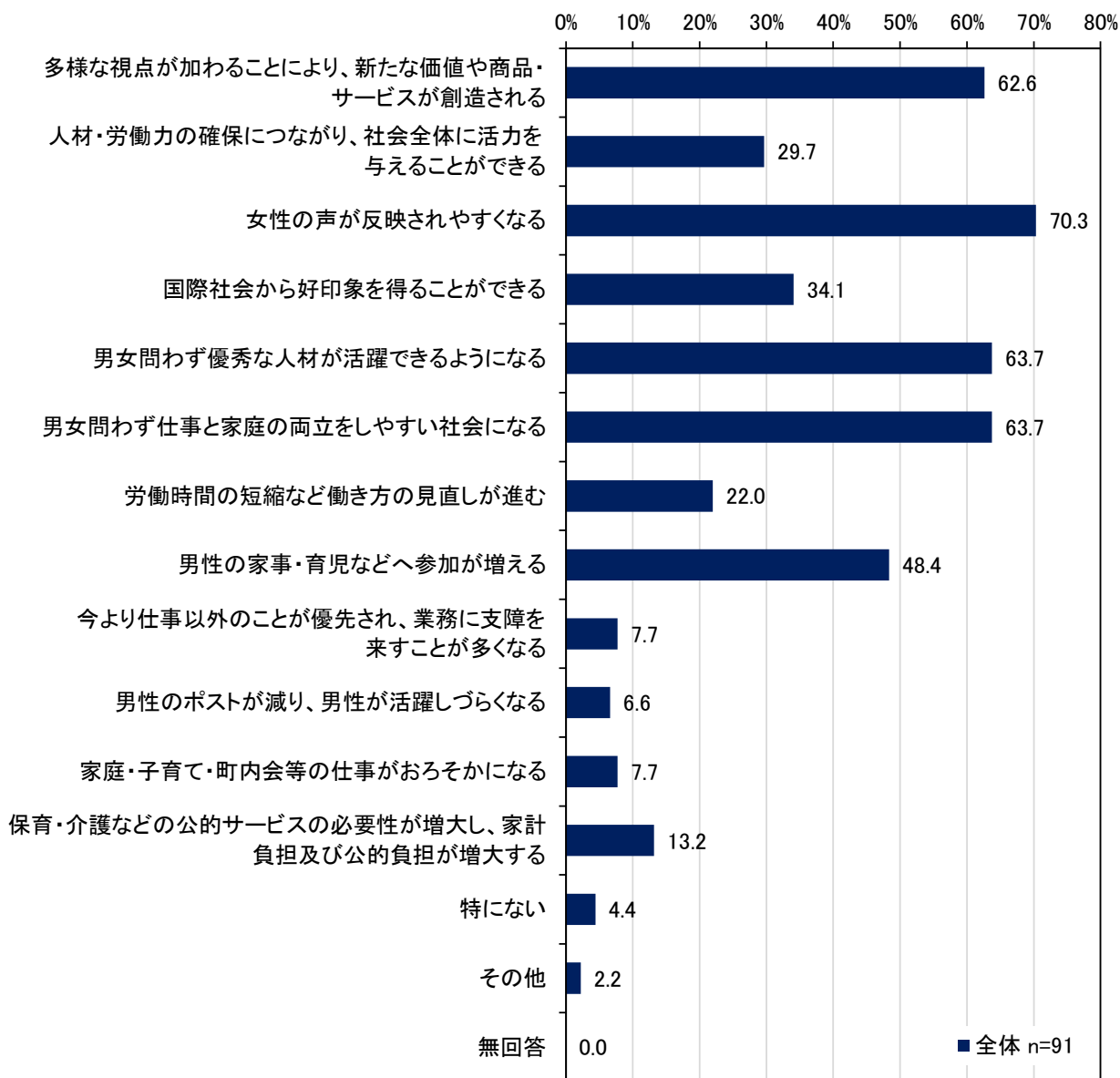


性別でみると、「あまり反映されていない」では、男性が28.8%、女性が61.3%と、女性が32.5ポイント上回っている。

【性別】 単位：%	十分反映 されている	ある程度 反映され ている	あまり反 映され ていない	まったく反 映され ていない	わから ない	無回答
男性 n=59	3.4	49.2	28.8	0.0	18.6	0.0
女性 n=31	0.0	22.6	61.3	0.0	16.1	0.0
回答しない n=1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

**問7 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、指導する立場の女性が増えると、どのような社会的変化があると思いますか。（回答はあてはまるものすべて）**

女性の参加が進むことにより、どのような社会的変化があると思うかについては、「女性の声が反映されやすくなる」が70.3%で最も高く、次いで「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」、「男女問わず仕事と家庭の両立をしやすい社会になる」がともに63.7%、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が62.6%となっている。



性別でみると、男性では、「女性の声が反映されやすくなる」が61.0%で最も高く、次いで「多様な視点加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が57.6%、「男女問わず仕事と家庭の両立をしやすい社会になる」が50.8%となっている。女性では、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が93.5%で最も高く、次いで「女性の声が反映されやすくなる」、「男女問わず仕事と家庭の両立をしやすい社会になる」がともに90.3%、「多様な視点加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」が74.2%となっている。

【性別】 単位：%	多様な視点加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	女性の声が反映されやすくなる	国際社会から好印象を得ることができる	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	男女問わず仕事と家庭の両立をしやすい社会になる	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	男性の家事・育児などへ参加が増える
男性 n=59	57.6	25.4	61.0	27.1	49.2	50.8	16.9	47.5
女性 n=31	74.2	38.7	90.3	48.4	93.5	90.3	32.3	51.6
回答しない n=1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【性別】 単位：%	今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	家庭・子育て・町内会等の仕事がおろそかになる	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する	特になし	その他	無回答
男性 n=59	6.8	8.5	6.8	11.9	5.1	1.7	0.0
女性 n=31	9.7	3.2	9.7	16.1	0.0	3.2	0.0
回答しない n=1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

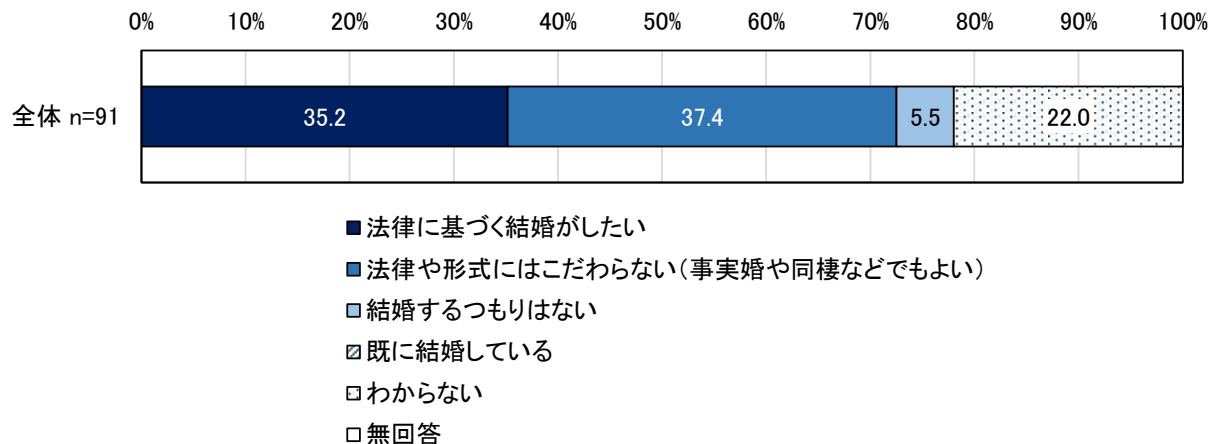
■その他の回答

- ・女性だからと関係ない、有能な人がなればそれで良くなる
- ・大きくは変わらないと思う

### 3. 家庭生活・地域活動について

#### 問8 あなたは、結婚についてどう思いますか。(回答は1つ)

結婚については、「法律や形式にはこだわらない(事実婚や同棲などでもよい)」が37.4%で最も高く、次いで「法律に基づく結婚がしたい」が35.2%、「わからない」が22.0%となっている。

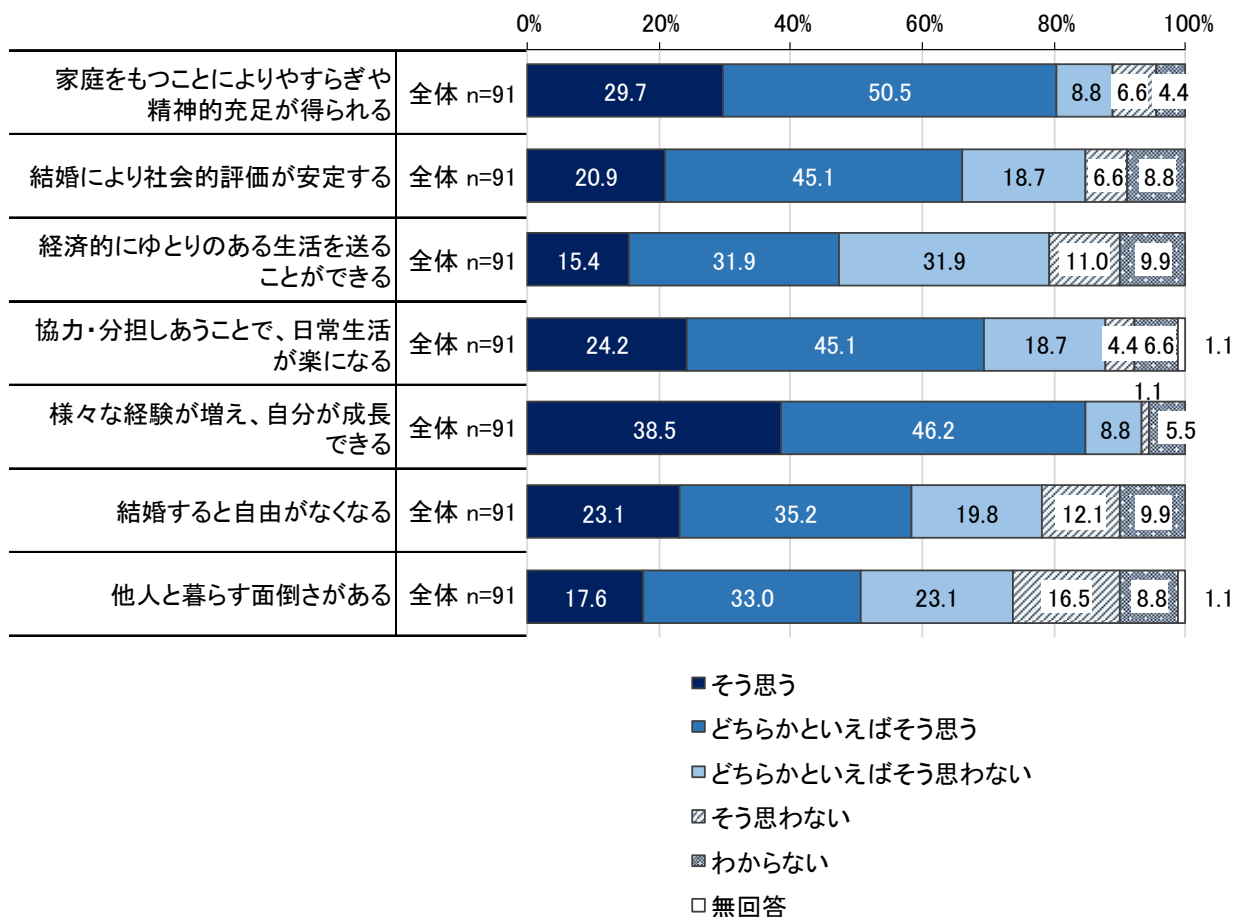


性別で見ると、「結婚するつもりはない」では、男性が1.7%、女性が9.7%と、女性が8.0ポイント上回っている。また、女性では、「わからない」の割合が男性に比べて高い傾向がみられる。

【性別】 単位:%	法律に基 づく結婚が したい	法律や形 式にはこ だわらな い(事実婚 や同棲な どでもよ い)	結婚する つもりはな い	既に結婚 している	わからな い	無回答
男性 n=59	37.3	42.4	1.7	0.0	18.6	0.0
女性 n=31	32.3	29.0	9.7	0.0	29.0	0.0
回答しない n=1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

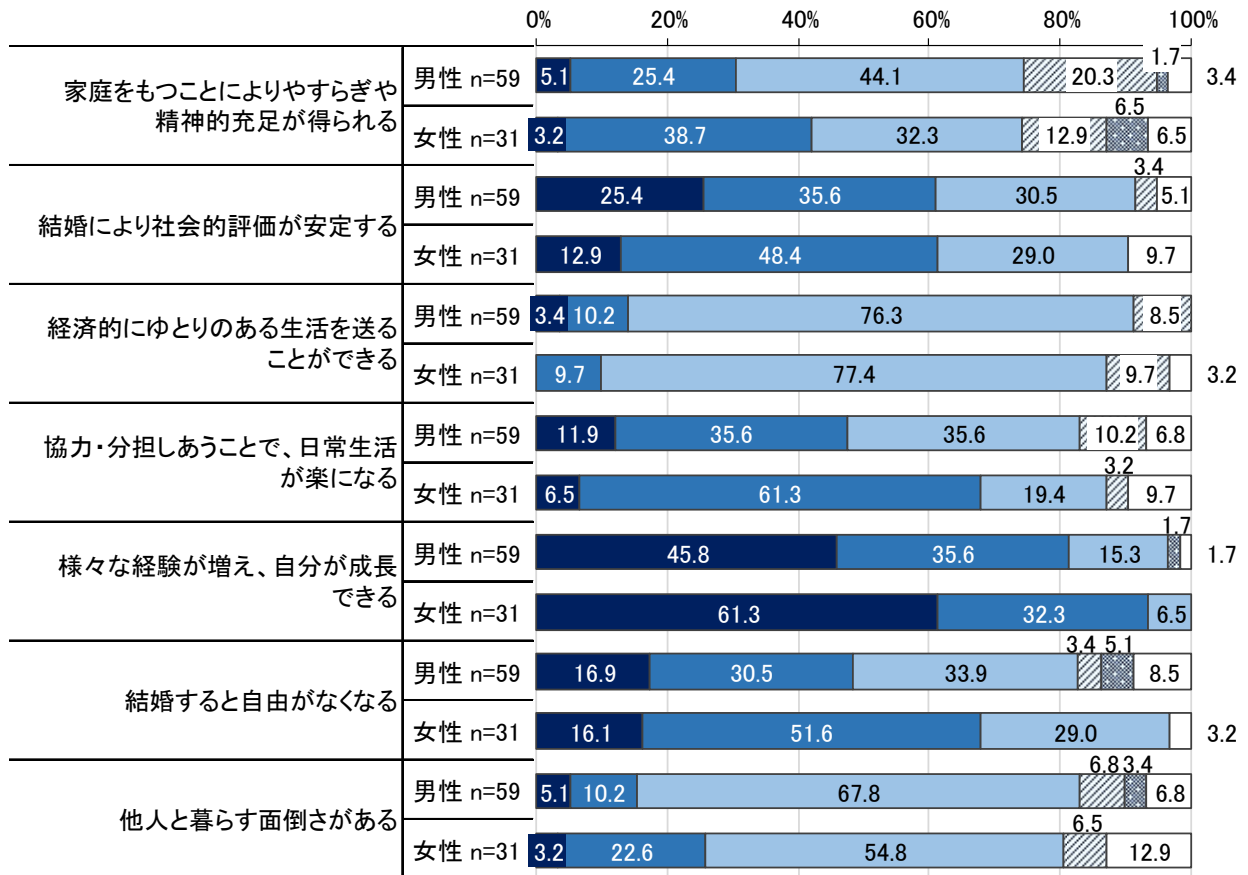
**問9 あなたは、「結婚」についてどのようなイメージをお持ちですか。**  
**(1)～(7)のそれぞれに回答してください。(それぞれ回答は1つ)**

結婚に対するイメージについて、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計値は、『様々な経験が増え、自分が成長できる』が84.7%で最も高く、次いで『家庭をもつことによりやすらぎや精神的充足が得られる』が80.2%、『協力・分担しあうことで、日常生活が楽になる』が69.3%となっている。



III. 調査結果

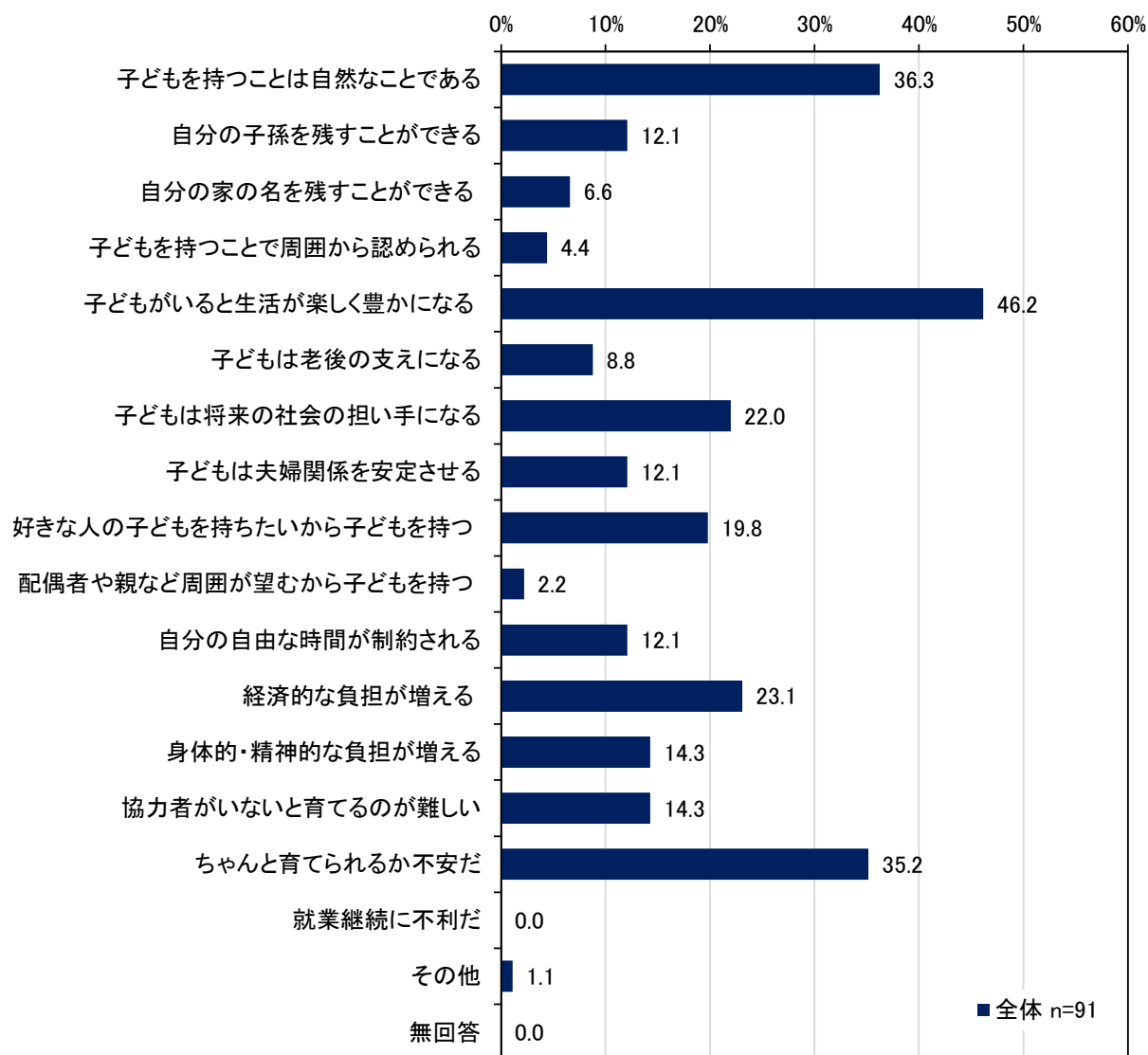
性別でみると、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計値として、結婚に対してマイナスのイメージとして捉えられる『結婚すると自由がなくなる』では、男性が47.4%、女性が67.7%と、女性が20.3ポイント上回っている。また、『他人と暮らす面倒さがある』では、男性が15.3%、女性が25.8%と、女性が10.5ポイント上回っている。



- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- ▨ わからない
- 無回答

### 問 10 あなたは、子どもを持つことについてどう思いますか。(回答は3つまで)

子どもを持つことについては、「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が46.2%で最も高く、次いで「子どもを持つことは自然なことである」が36.3%、「ちゃんと育てられるか不安だ」が35.2%となっている。



### Ⅲ. 調査結果

性別でみると、男性では、「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が47.5%で最も高く、次いで「子どもを持つことは自然なことである」が44.1%、「子どもは将来の社会の担い手になる」、「ちゃんと育てられるか不安だ」がともに27.1%となっている。女性では、「ちゃんと育てられるか不安だ」が51.6%で最も高く、次いで「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」が45.2%、「経済的な負担が増える」が32.3%となっている。

【性別】 単位：%	子どもを持つことは自然なことである	自分の子孫を残すことができる	自分の家の名を残すことができる	子どもを持つことで周囲から認められる	子どもがいると生活が楽しく豊かになる	子どもは老後の支えになる	子どもは将来の社会の担い手になる	子どもは夫婦関係を安定させる	好きな人の子どもを持ちたいから子どもを持つ
男性 n=59	44.1	18.6	6.8	5.1	47.5	8.5	27.1	13.6	18.6
女性 n=31	22.6	0.0	6.5	3.2	45.2	6.5	12.9	9.7	22.6
回答しない n=1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

【性別】 単位：%	配偶者や親など周囲が望むから子どもを持つ	自分の自由な時間が制約される	経済的な負担が増える	身体的・精神的な負担が増える	協力者がいないと育てるのが難しい	ちゃんと育てられるか不安だ	就業継続に不利だ	その他	無回答
男性 n=59	0.0	11.9	18.6	8.5	8.5	27.1	0.0	1.7	0.0
女性 n=31	6.5	9.7	32.3	22.6	25.8	51.6	0.0	0.0	0.0
回答しない n=1	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

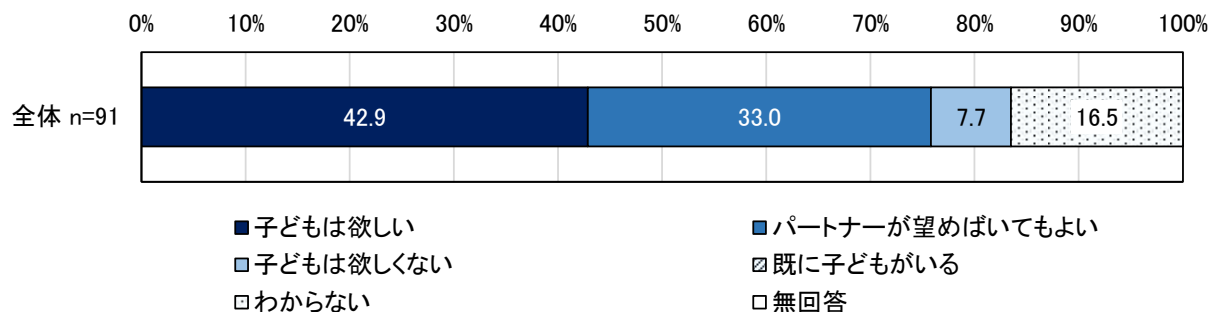
#### ■その他の回答

・かわいい



**問 11 将来、子どもを欲しいと思いますか。(回答は1つ)**

子どもを欲しいと思うかについては、「子どもは欲しい」が42.9%で最も高く、次いで「パートナーが望めばいてもよい」が33.0%、「わからない」が16.5%となっている。



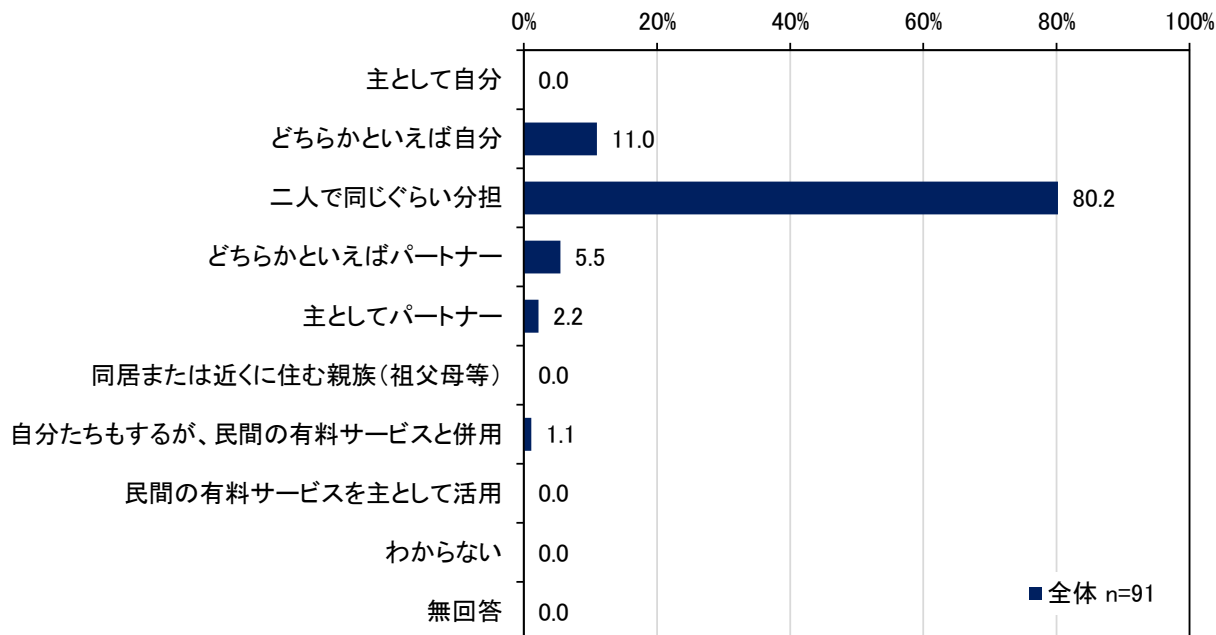
性別でみると、「子どもは欲しい」では、男性が40.7%、女性が48.4%と、女性が7.7ポイント上回っている。一方で、男性では、「パートナーが望めばいてもよい」の割合が女性に比べて高い傾向がみられる。

【性別】 単位:%	子どもは 欲しい	パートナ ーが望めば いてもよい	子どもは 欲しくない	既に子ど もがいる	わからな い	無回答
男性 n=59	40.7	39.0	6.8	0.0	13.6	0.0
女性 n=31	48.4	22.6	6.5	0.0	22.6	0.0
回答しない n=1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0

**問 12 あなたが将来家庭を持ったとしたら、家事、育児は主に誰がすれば良いと思いますか。  
(1)、(2)のそれぞれに回答してください。(それぞれ回答は1つ)**

**(1) 家事**

家事については、「二人で同じぐらい分担」が 80.2%で最も高く、次いで「どちらかといえば自分」が 11.0%、「どちらかといえばパートナー」が 5.5%となっている。



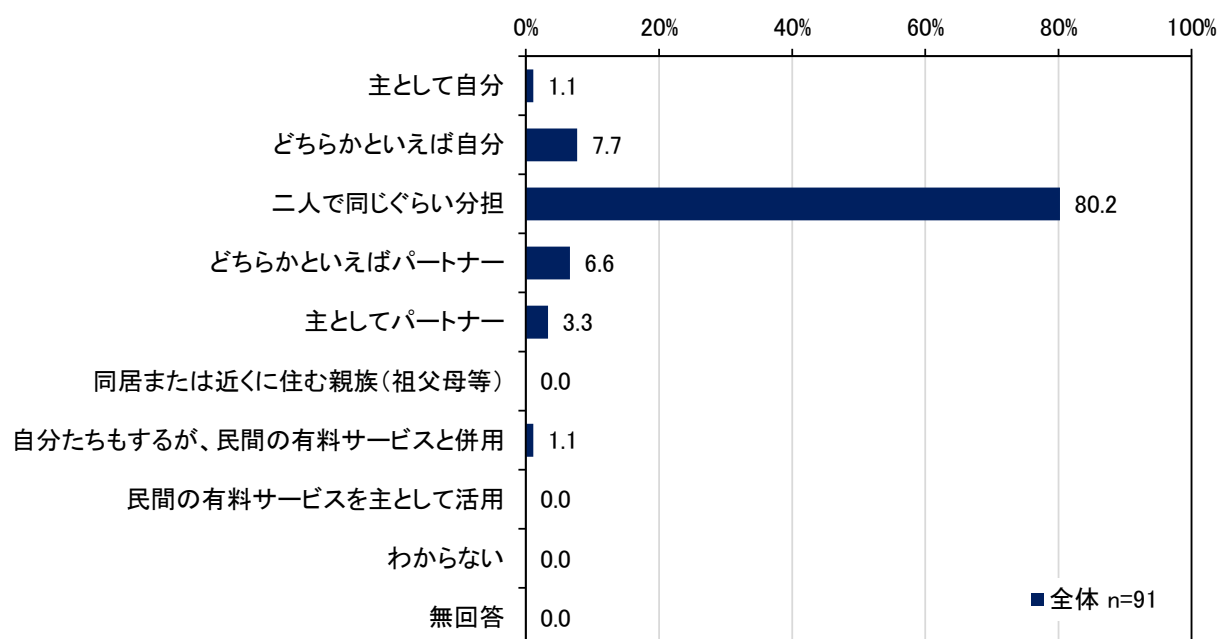
性別でみると、「二人で同じぐらい分担」では、男性が 78.0%、女性が 83.9%と、女性が 5.9 ポイント上回っている。

【性別】 単位: %	主として自分	どちらかといえば自分	二人で同じぐらい分担	どちらかといえばパートナー	主としてパートナー	同居または近くに住む親族(祖父母等)	自分たちもするが、民間の有料サービスと併用	民間の有料サービスを主として活用
男性 n=59	0.0	10.2	78.0	8.5	3.4	0.0	0.0	0.0
女性 n=31	0.0	12.9	83.9	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0
回答しない n=1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【性別】 単位: %	わからない	無回答
男性 n=59	0.0	0.0
女性 n=31	0.0	0.0
回答しない n=1	0.0	0.0

(2) 育児

育児については、「二人で同じぐらい分担」が 80.2%で最も高く、次いで「どちらかといえば自分」が 7.7%、「どちらかといえばパートナー」が 6.6%となっている。



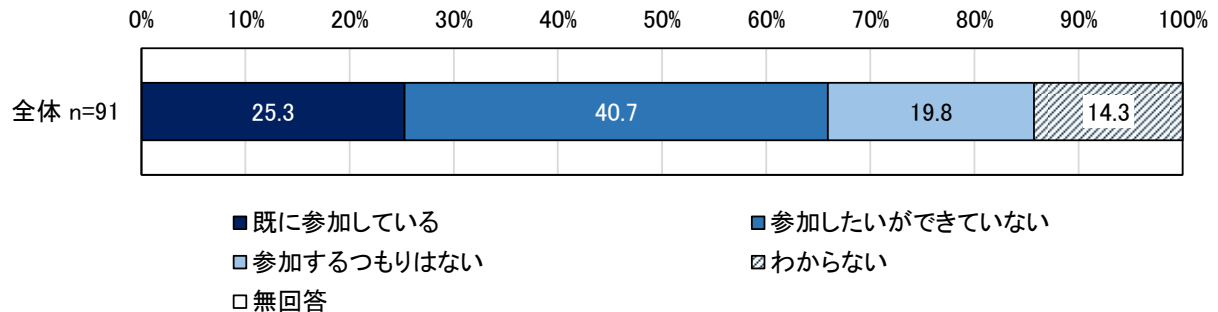
性別でみると、「二人で同じぐらい分担」では、男性が 78.0%、女性が 83.9%と、女性が 5.9 ポイント上回っている。

【性別】 単位: %	主として自分	どちらかといえば自分	二人で同じぐらい分担	どちらかといえばパートナー	主としてパートナー	同居または近くに住む親族(祖父母等)	自分たちもするが、民間の有料サービスと併用	民間の有料サービスを主として活用
男性 n=59	0.0	6.8	78.0	10.2	5.1	0.0	0.0	0.0
女性 n=31	3.2	9.7	83.9	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0
回答しない n=1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【性別】 単位: %	わからない	無回答
男性 n=59	0.0	0.0
女性 n=31	0.0	0.0
回答しない n=1	0.0	0.0

**問 13 あなたは学校以外の社会活動、地域活動に参加してみたいと思いますか。(回答は1つ)**

学校以外の社会活動、地域活動への参加については、「参加したいができていない」が40.7%で最も高く、次いで「既に参加している」が25.3%、「参加するつもりはない」が19.8%となっている。



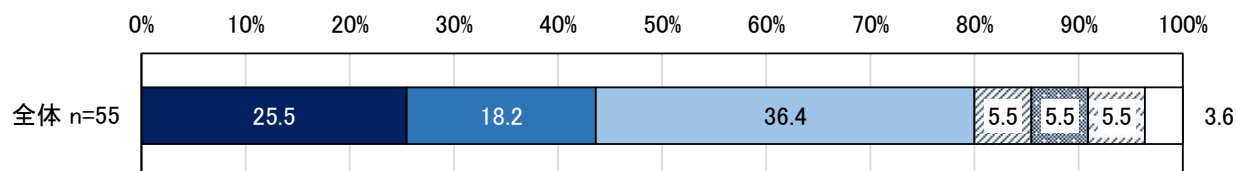
性別でみると、「参加したいができていない」では、男性が35.6%、女性が51.6%と、女性が16.0ポイント上回っている。

【性別】 単位: %	既に参加している	参加したいができていない	参加するつもりはない	わからない	無回答
男性 n=59	25.4	35.6	22.0	16.9	0.0
女性 n=31	22.6	51.6	16.1	9.7	0.0
回答しない n=1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【問 13 で「参加したいができていない」、「参加するつもりはない」と回答した方にお聞きします。】

**問 14 参加できない、参加するつもりがない理由は何ですか。（回答は1つ）**

参加できない、参加するつもりがない理由については、「情報がなく、どうやって参加したらよいかわからない」が 36.4%で最も高く、次いで「忙しくて参加できない」が 25.5%、「関心がない」が 18.2%となっている。



- 忙しくて参加できない
- 関心がない
- 情報がなく、どうやって参加したらよいかわからない
- ☑ 受け入れてもらえるか不安で参加する勇気が出ない
- 経済的余裕がない
- 参加したいと思う活動がない
- その他
- 無回答

性別でみると、男性では、「忙しくて参加できない」が 32.4%で最も高い一方で、女性では、「情報がなく、どうやって参加したらよいかわからない」が 57.1%で最も高くなっている。

【性別】 単位：%	忙しくて参加できない	関心がない	情報がなく、どうやって参加したらよいかわからない	受け入れてもらえるか不安で参加する勇気が出ない	経済的余裕がない	参加したいと思う活動がない	その他	無回答
男性 n=34	32.4	17.6	23.5	5.9	0.0	8.8	5.9	5.9
女性 n=21	14.3	19.0	57.1	4.8	0.0	0.0	4.8	0.0
回答しない n=0	-	-	-	-	-	-	-	-

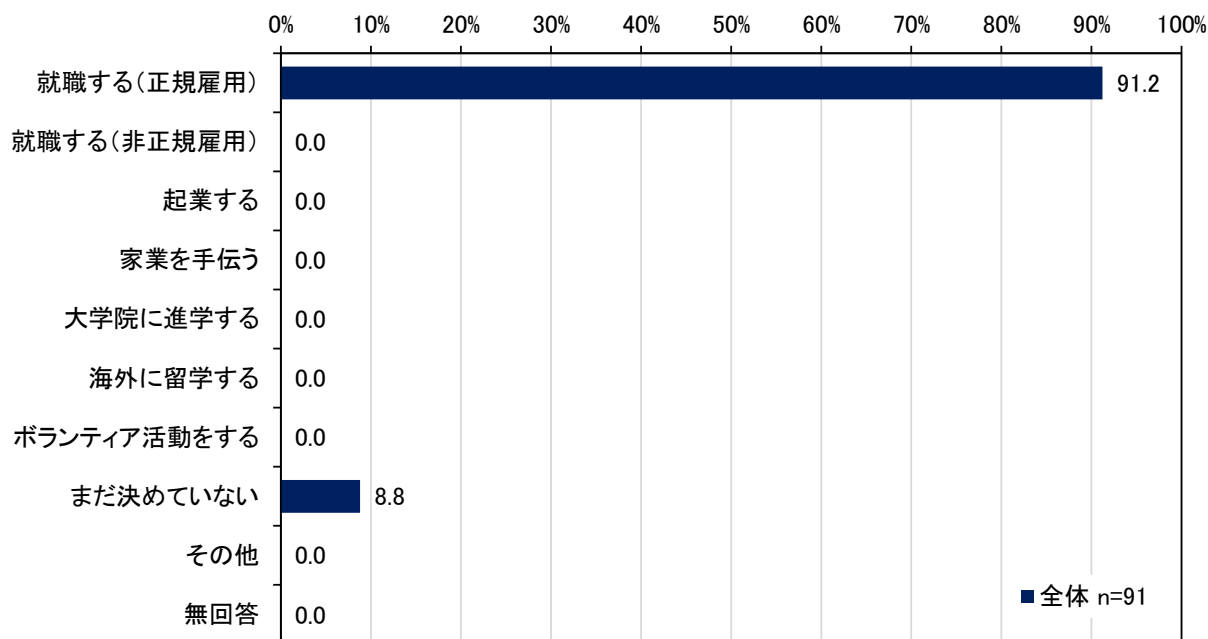
■ その他の回答

- ・コロナ
- ・コロナの感染拡大の影響
- ・今年の夏に参加する予定があったが、コロナの影響で中止された、それによって、参加したいという気持ちはあるのだが、また中止になったらという思いがあり、なかなか踏み出せない状況にある

## 4. 仕事と生活の両立について

### 問 15 あなたは、大学卒業後の進路をどのように考えていますか。(回答は1つ)

大学卒業後の進路については、「就職する（正規雇用）」が 91.2%で最も高く、次いで「まだ決めていない」が 8.8%となっている。



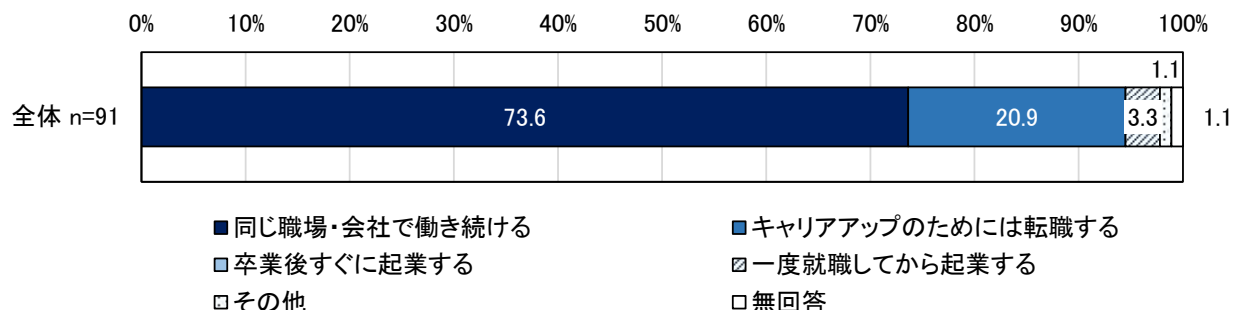
性別でみると、「就職する（正規雇用）」が男性、女性ともに最も高く、男性が 93.2%、女性が 87.1%と、男性が 6.1 ポイント上回っている。

【性別】 単位：%	就職する (正規雇用)	就職する (非正規雇用)	起業する	家業を手 伝う	大学院に 進学する	海外に留 学する	ボランティ ア活動を する	まだ決め ていない
男性 n=59	93.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8
女性 n=31	87.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.9
回答しない n=1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【性別】 単位：%	その他	無回答
男性 n=59	0.0	0.0
女性 n=31	0.0	0.0
回答しない n=1	0.0	0.0

**問 16 あなたが理想とする働き方として、最も近い考え方は、次のどれですか。(回答は1つ)**

理想とする働き方については、「同じ職場・会社で働き続ける」が73.6%で最も高く、次いで「キャリアアップのためには転職する」が20.9%、「一度就職してから起業する」が3.3%となっている。



性別でみると、「同じ職場・会社で働き続ける」が男性、女性ともに最も高く、男性が71.2%、女性が77.4%と、女性が6.2ポイント上回っている。

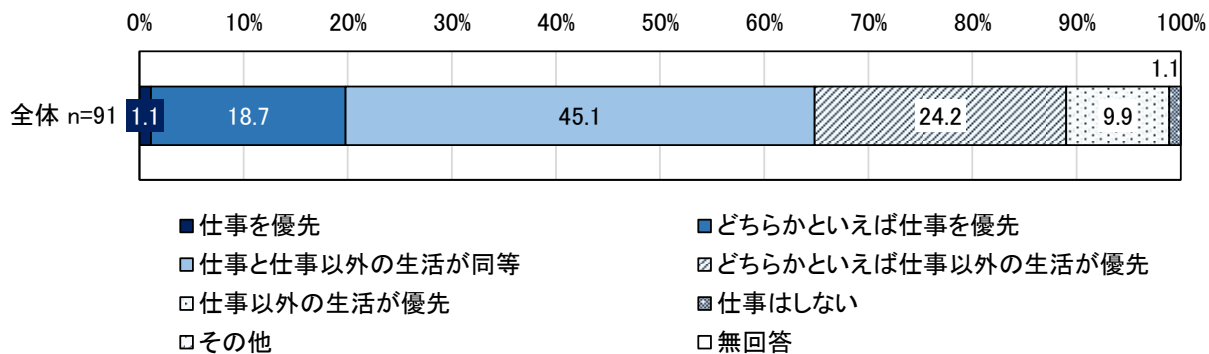
【性別】 単位: %	同じ職場・会社で働き続ける	キャリアアップのためには転職する	卒業後すぐに起業する	一度就職してから起業する	その他	無回答
男性 n=59	71.2	22.0	0.0	5.1	1.7	0.0
女性 n=31	77.4	19.4	0.0	0.0	0.0	3.2
回答しない n=1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

**■ その他の回答**

・大学を卒業したら就職はするが、5年から10年やってスキルをつけて事業を継ぐ

**問 17 仕事と仕事以外の生活（家庭生活や趣味など個人の生活など）のバランスについて、あなたの理想に近い状態は、次のどれですか。（回答は1つ）**

理想に近い仕事と仕事以外の生活のバランスについては、「仕事と仕事以外の生活が同等」が45.1%で最も高く、次いで「どちらかといえば仕事以外の生活が優先」が24.2%、「どちらかといえば仕事を優先」が18.7%となっている。



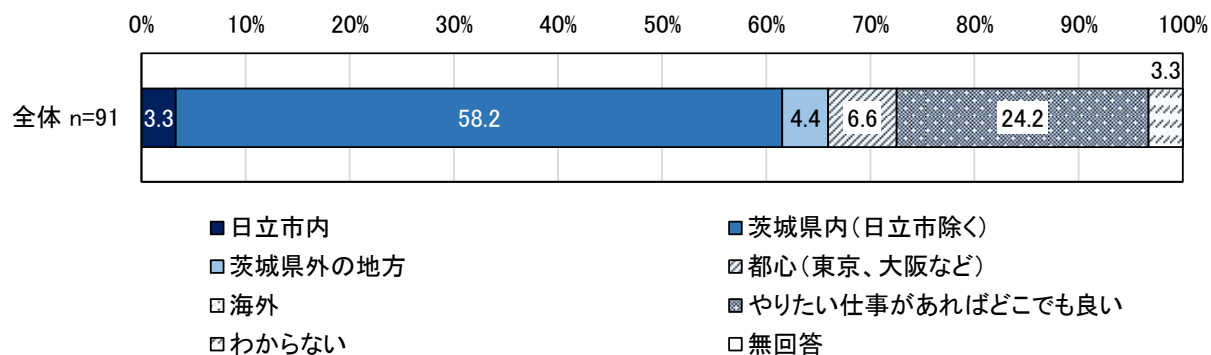
性別でみると、「仕事と仕事以外の生活が同等」では、男性が37.3%、女性が61.3%と、女性が24.0ポイント上回っている。

【性別】 単位：%	仕事を優先	どちらかといえば仕事を優先	仕事と仕事以外の生活が同等	どちらかといえば仕事以外の生活が優先	仕事以外の生活が優先	仕事はしない	その他	無回答
男性 n=59	1.7	23.7	37.3	23.7	11.9	1.7	0.0	0.0
女性 n=31	0.0	9.7	61.3	22.6	6.5	0.0	0.0	0.0
回答しない n=1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0



**問 18 理想とする働く場所は、次のどれですか。(回答は1つ)**

理想とする働く場所については、「茨城県内（日立市除く）」が 58.2%で最も高く、次いで「やりたい仕事があればどこでも良い」が 24.2%、「都心（東京、大阪など）」が 6.6%となっている。

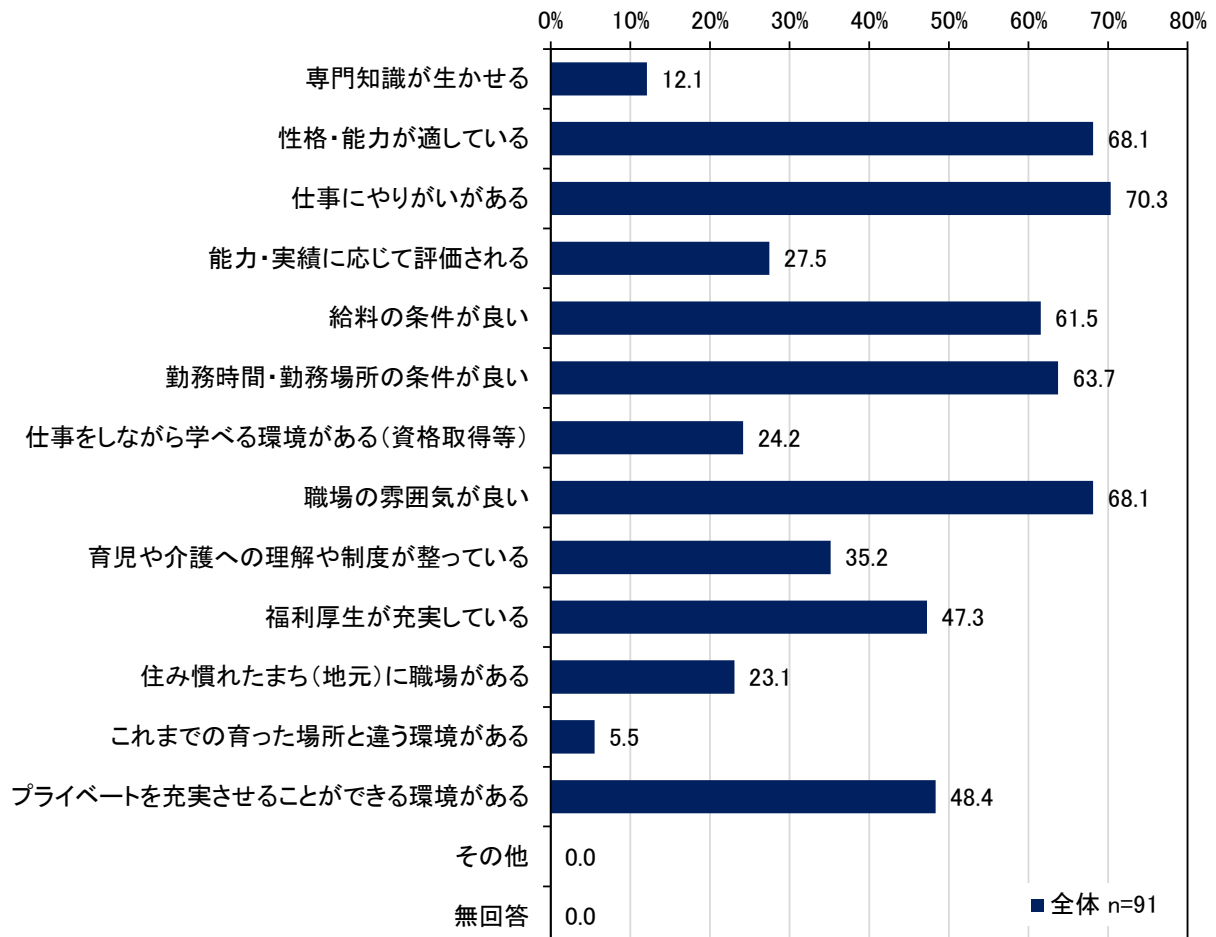


性別でみると、「茨城県内（日立市除く）」が男性、女性ともに最も高く、約6割となっている。

【性別】 単位: %	日立市内	茨城県内 (日立市 除く)	茨城県外 の地方	都心(東 京、大阪 など)	海外	やりたい 仕事があ ればどこ でも良い	わからな い	無回答
男性 n=59	5.1	57.6	3.4	3.4	0.0	25.4	5.1	0.0
女性 n=31	0.0	58.1	6.5	12.9	0.0	22.6	0.0	0.0
回答しない n=1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

**問 19 あなたが仕事を選ぶとき、重視することは何ですか。(回答はあてはまるものすべて)**

仕事を選ぶときに重視することについては、「仕事にやりがいがある」が70.3%で最も高く、次いで「性格・能力が適している」、「職場の雰囲気が良い」がともに68.1%、「勤務時間・勤務場所の条件が良い」が63.7%となっている。



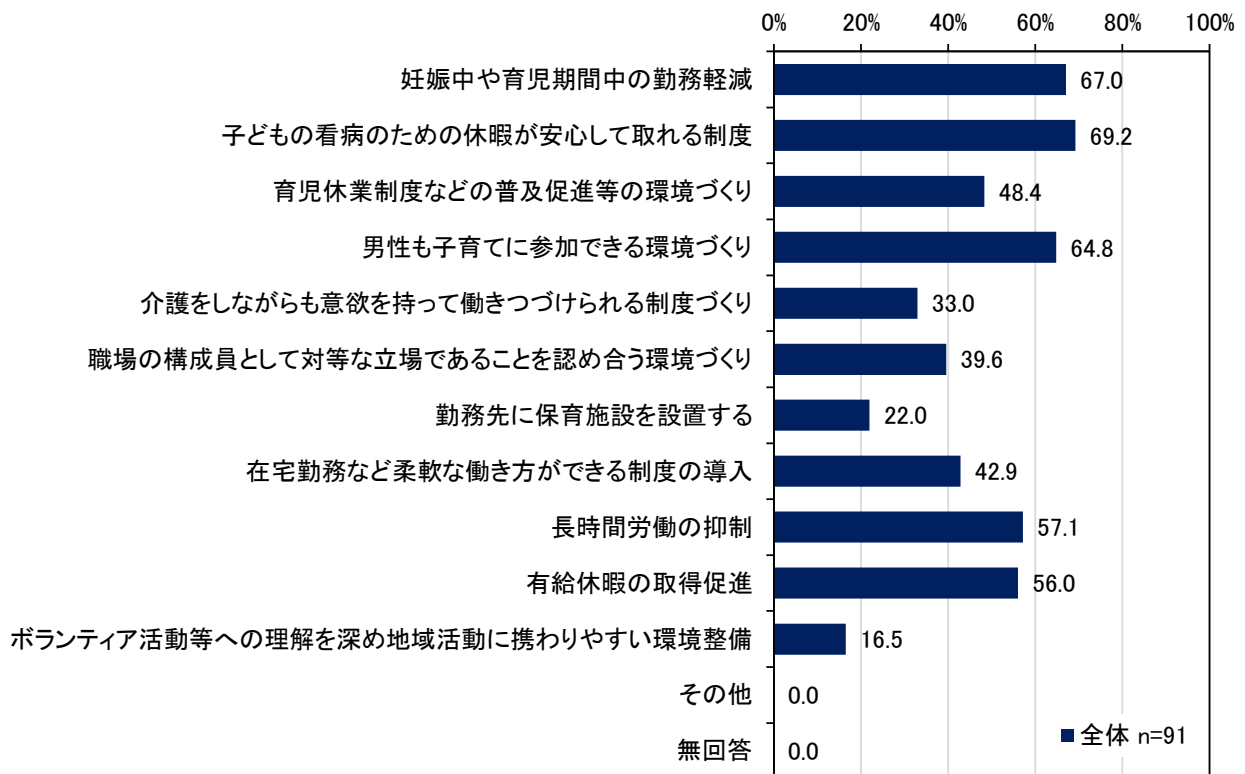
性別でみると、男性では、「仕事にやりがいがある」が72.9%で最も高く、次いで「職場の雰囲気が良い」が64.4%、「性格・能力が適している」が62.7%となっている。女性では、「給料の条件が良い」が80.6%で最も高く、次いで「性格・能力が適している」、「勤務時間・勤務場所の条件が良い」がともに77.4%、「職場の雰囲気が良い」が74.2%となっている。

【性別】 単位：%	専門知識 が生かせる	性格・能力が 適している	仕事にや りがいがある	能力・実 績に応じて 評価される	給料の条 件が良い	勤務時 間・勤務 場所の条 件が良い	仕事をしな がら学べ る環境が ある(資格 取得等)	職場の雰 囲気が良 い
男性 n=59	11.9	62.7	72.9	28.8	50.8	55.9	25.4	64.4
女性 n=31	12.9	77.4	67.7	25.8	80.6	77.4	22.6	74.2
回答しない n=1	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0

【性別】 単位：%	育児や介 護への理 解や制度 が整って いる	福利厚生 が充実し ている	住み慣れ たまち(地 元)に職場 がある	これまで の育った 場所と違 う環境が ある	プライベ ートを充 実させる ことが できる環 境がある	その他	無回答
男性 n=59	32.2	47.5	22.0	8.5	45.8	0.0	0.0
女性 n=31	41.9	45.2	25.8	0.0	51.6	0.0	0.0
回答しない n=1	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

**問 20 あなたは、一般的に仕事と仕事以外の生活を両立するためには、企業や事業所は従業員に対してどのような支援を充実させるべきだと思いますか。（回答はあてはまるものすべて）**

仕事と仕事以外の生活を両立するため、企業や事業所は従業員に対してどのような支援を充実させるべきだと思うかについては、「子どもの看病のための休暇が安心して取れる制度」が69.2%で最も高く、次いで「妊娠中や育児期間中の勤務軽減」が67.0%、「男性も子育てに参加できる環境づくり」が64.8%となっている。



性別でみると、男性では、「妊娠中や育児期間中の勤務軽減」が74.6%で最も高く、次いで「子どもの看病のための休暇が安心して取れる制度」が64.4%、「男性も子育てに参加できる環境づくり」が62.7%となっている。女性では、「子どもの看病のための休暇が安心して取れる制度」が80.6%で最も高く、次いで「有給休暇の取得促進」が77.4%、「男性も子育てに参加できる環境づくり」、「長時間労働の抑制」がともに67.7%となっている。

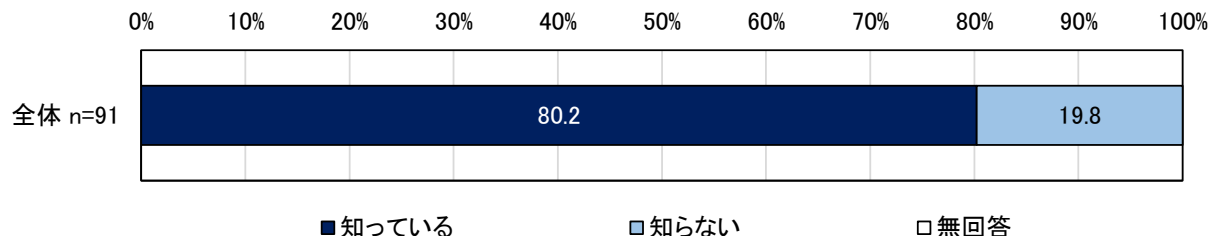
【性別】 単位：%	妊娠中や 育児期間 中の勤務 軽減	子どもの 看病のた めの休暇 が安心して 取れる 制度	育児休業 制度など の普及促 進等の環 境づくり	男性も子 育てに参 加できる 環境づくり	介護をしな がらも意 欲を持っ て働きつ づけられる 制度づくり	職場の構 成員とし て対等な 立場であ ることを認 め合う環 境づくり	勤務先に 保育施設 を設置す る	在宅勤務 など柔軟 な働き方 ができる 制度の導 入
男性 n=59	74.6	64.4	45.8	62.7	23.7	37.3	16.9	35.6
女性 n=31	54.8	80.6	51.6	67.7	51.6	41.9	32.3	58.1
回答しない n=1	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0

【性別】 単位：%	長時間労 働の抑制	有給休暇 の取得促 進	ボランティ ア活動等 への理解 を深め地 域活動に 携わりや すい環境 整備	その他	無回答
男性 n=59	50.8	44.1	16.9	0.0	0.0
女性 n=31	67.7	77.4	16.1	0.0	0.0
回答しない n=1	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0

## 5. 人権問題・DVについて

### 問 21 あなたは、「性的マイノリティ（LGBT等）」という言葉を知っていますか。（回答は1つ）

「性的マイノリティ（LGBT等）」については、「知っている」が80.2%、「知らない」が19.8%となっている。

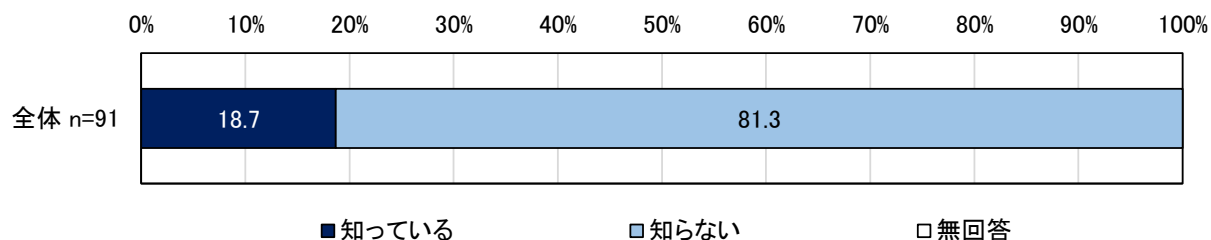


性別でみると、「知らない」では、男性が27.1%、女性が6.5%と、男性が20.6ポイント上回っている。

【性別】 単位：%	知っている	知らない	無回答
男性 n=59	72.9	27.1	0.0
女性 n=31	93.5	6.5	0.0
回答しない n=1	100.0	0.0	0.0

### 問 22 あなたは、「いばらきパートナーシップ宣誓制度」を知っていますか。（回答は1つ）

「いばらきパートナーシップ宣誓制度」については、「知っている」が18.7%、「知らない」が81.3%となっている。



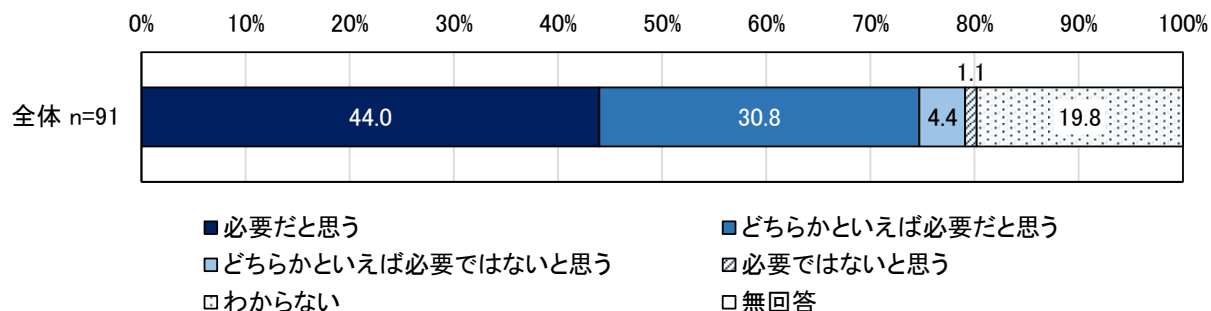
性別でみると、「知らない」では、男性が81.4%、女性が83.9%と、女性が2.5ポイント上回っている。

【性別】 単位：%	知っている	知らない	無回答
男性 n=59	18.6	81.4	0.0
女性 n=31	16.1	83.9	0.0
回答しない n=1	100.0	0.0	0.0

**問 23 あなたは、一部の自治体で取り組みを進めている「パートナーシップ制度」について、どのように思いますか。(回答は1つ)**

※「パートナーシップ制度」とは、同性カップルを婚姻に相当する関係と公認する制度。

「パートナーシップ制度」に対して、どのように思うかについては、「必要だと思う」が44.0%で最も高く、次いで「どちらかといえば必要だと思う」が30.8%、「わからない」が19.8%となっている。

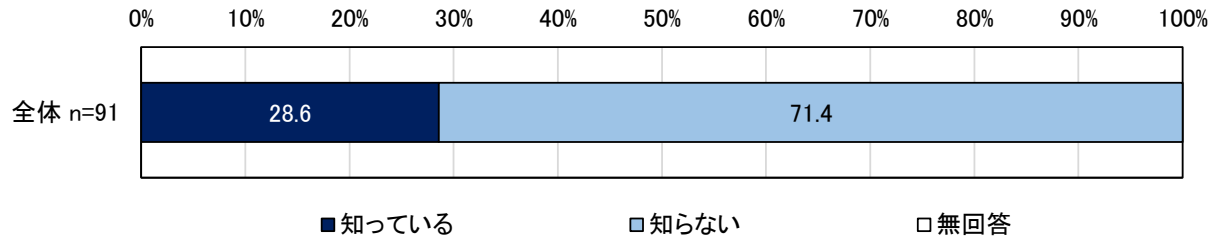


性別でみると、「必要だと思う」、「どちらかといえば必要だと思う」の合計値は、男性が69.5%、女性が83.9%と、女性が14.4ポイント上回っている。

【性別】 単位: %	必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要ではないと思う	必要ではないと思う	わからない	無回答
男性 n=59	35.6	33.9	5.1	1.7	23.7	0.0
女性 n=31	61.3	22.6	3.2	0.0	12.9	0.0
回答しない n=1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0

**問 24 あなたは、恋人などからの暴力等について相談できる窓口を知っていますか。(回答は1つ)**

恋人などからの暴力等を相談できる窓口については、「知っている」が28.6%、「知らない」が71.4%となっている。



性別でみると、「知らない」では、男性が74.6%、女性が67.7%と、男性が6.9ポイント上回っている。

【性別】 単位:%	知っている	知らない	無回答
男性 n=59	25.4	74.6	0.0
女性 n=31	32.3	67.7	0.0
回答しない n=1	100.0	0.0	0.0



【交際経験がある人にお聞きします。】

問 25 あなたは、これまでに恋人から以下のような行為を受けたことがありますか。  
 (回答はあてはまるものすべて)

恋人から受けた行為については、「交際相手から受けた行為はない」が86.5%で最も高く、次いで「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な表現をする」が7.7%、「容姿について傷つくようなことを言う」が5.8%となっている。

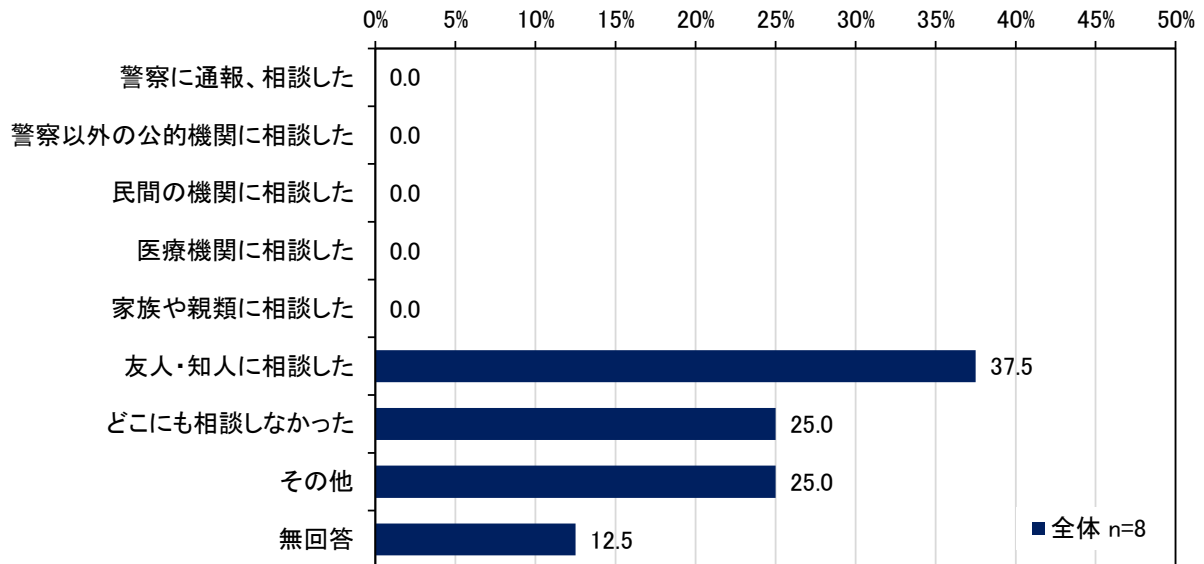


※本設問への回答者数を母数として構成比を算出

【問 25 で「1.」から「17.」を回答した方にお聞きします。】

**問 26 恋人から暴力等を受けたとき、どこに相談しましたか。(回答はあてはまるものすべて)**

恋人から暴力等を受けたときの相談先については、「友人・知人に相談した」が 37.5%で最も高く、次いで「どこにも相談しなかった」、「その他」がともに 25.0%となっている。



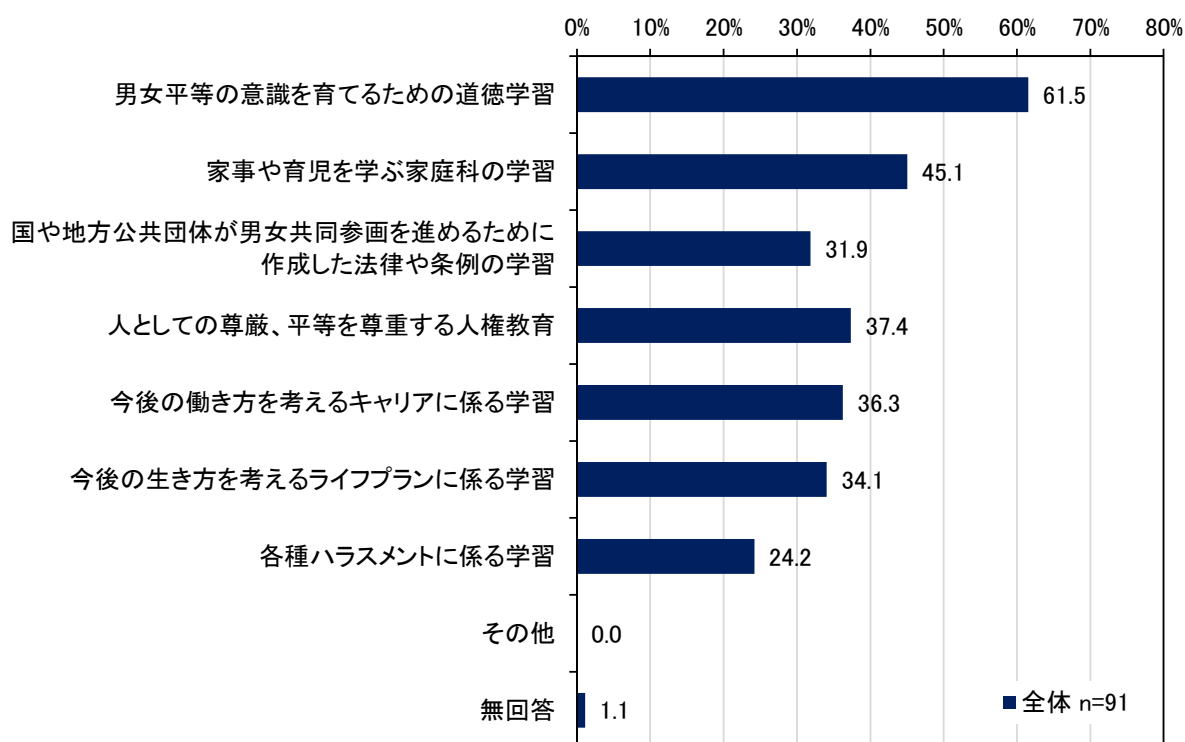
■ その他の回答

- ・自分で相手に嫌だと伝えた
- ・気にしなかった

## 6. 男女共同参画の推進について

**問 27 あなたは、今までの学生時代（小中学校・高校）で、男女共同参画に係る以下について学ぶ機会がありましたか。（回答はあてはまるものすべて）**

学生時代に男女共同参画について学ぶ機会があったかについては、「男女平等の意識を育てるための道徳学習」が61.5%で最も高く、次いで「家事や育児を学ぶ家庭科の学習」が45.1%、「人としての尊厳、平等を尊重する人権教育」が37.4%となっている。

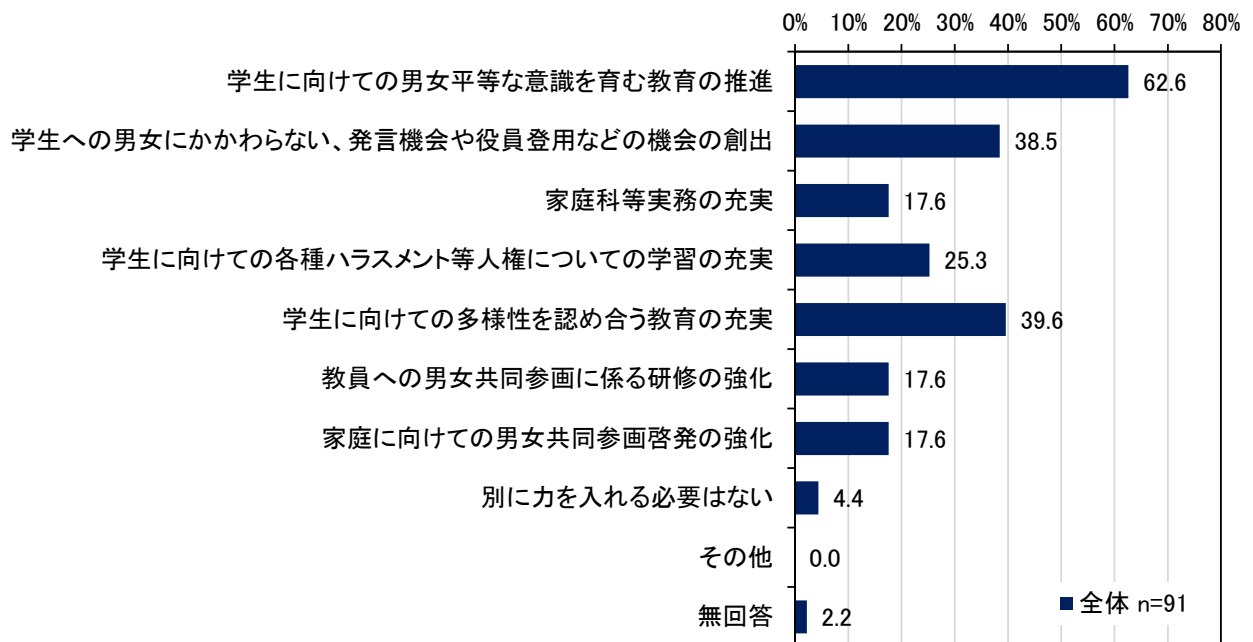


性別でみると、男性では、「男女平等の意識を育てるための道徳学習」が71.2%で最も高い一方で、女性では、「家事や育児を学ぶ家庭科の学習」、「人としての尊厳、平等を尊重する人権教育」がともに51.6%で最も高くなっている。

【性別】 単位：%	男女平等の意識を育てるための道徳学習	家事や育児を学ぶ家庭科の学習	国や地方公共団体が男女共同参画を進めるために作成した法律や条例の学習	人としての尊厳、平等を尊重する人権教育	今後の働き方を考えるキャリアに係る学習	今後の生き方を考えるライフプランに係る学習	各種ハラスメントに係る学習	その他	無回答
男性 n=59	71.2	40.7	30.5	30.5	35.6	33.9	25.4	0.0	0.0
女性 n=31	41.9	51.6	35.5	51.6	35.5	32.3	19.4	0.0	3.2
回答しない n=1	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0

**問 28 あなたは、男女共同参画社会の実現のために、学校（小中学校・高校）で特にどのようなことに力を入れればよいと思いますか。（回答は3つまで）**

男女共同参画社会の実現のために、学校で特に力を入れればよいと思うことについては、「学生に向けての男女平等な意識を育む教育の推進」が 62.6%で最も高く、次いで「学生に向けての多様性を認め合う教育の充実」が 39.6%、「学生への男女にかかわらない、発言機会や役員登用などの機会の創出」が 38.5%となっている。



性別でみると、「学生に向けての男女平等な意識を育む教育の推進」が男性、女性ともに最も高く、男性が 59.3%、女性が 71.0%と、女性が 11.7 ポイント上回っている。

【性別】 単位：%	学生に向けての男女平等な意識を育む教育の推進	学生への男女にかかわらず、発言機会や役員登用などの機会の創出	家庭科等実務の充実	学生に向けての各種ハラスメント等人権についての学習の充実	学生に向けての多様性を認め合う教育の充実	教員への男女共同参画に係る研修の強化	家庭に向けての男女共同参画啓発の強化	別に力を入れる必要はない
男性 n=59	59.3	40.7	13.6	30.5	35.6	18.6	16.9	5.1
女性 n=31	71.0	35.5	25.8	16.1	48.4	16.1	16.1	3.2
回答しない n=1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

【性別】 単位：%	その他	無回答
男性 n=59	0.0	1.7
女性 n=31	0.0	3.2
回答しない n=1	0.0	0.0

## 7. 自由記述について

自由記述の内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性には妊娠・出産など男性にはないものがあり、どうしても平等な待遇というわけにはいかないと思います。なので、男女それぞれにとって平等ではなく公平な、それぞれに適した世の中をつくってほしいと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世の中は男女平等を目指しているが、正直、男女公平を目指したほうが良い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は大学生ですが、小・中・高での男女差別はほぼなかったものと思われます。男女差よりも隠れたいじめの方が私は目につきました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの時代、男性だから、女性だからと分けて考えることをなくし、どちらも平等に社会参加ができるようにすることが必要である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の育休はどこに行っても取りづらい気がしてならない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだまだ家庭での女性の負担が大きく、家事や育児に積極的に参加してくれる男性が少ない気がする。一般企業だけでなく、地方公共団体でも男性の育休取得が上昇すれば良いと思った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女雇用機会均等法や育児休暇制度などの法整備は進んでいるが、依然として社会の意識は変わっていない。例えば、「女性は外で働かず、家庭を守るべきだ」といった前時代的な考え方や、「女性は管理職などの指導的立場に就くべきでない」といったものだ。このような意識を変えていかなければ、いつまで経っても女性が活躍できる社会は訪れないし、男女平等といったものは実現しない。こういった意識は、特に男性に多く、年齢が上の層ほどそういった意識が強い。こういった人たちの意識を変えるのは不可能だが、これから社会を担っていく人々には、このような時代遅れな考え方を承継させないために、行政が男女共同参画についての講演を行ったり、女性で指導的立場にいる人を広報誌等に掲載すること、また、行政自らが進んで女性の管理職登用を進めていくべきである。</li> </ul>

日立市  
男女共同参画に関する大学生アンケート  
【結果報告書】

令和3年11月

発行：日立市生活環境部女性若者支援課男女共同参画推進室  
〒317-0073  
茨城県日立市幸町1-21-1  
電話：0294-26-0315      F A X：0294-26-0317  
E-mail：josei@city.hitachi.lg.jp  
日立市ホームページ：<https://www.city.hitachi.lg.jp/>